

圖書義舉

2006年度

講義計畫

桃山学院大学

講 義 計 画

科 目 名			
社会調査A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	2単位	過 放

【講義概要・学習目標】

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義と用途、調査の歴史、具体的な方法、調査の倫理などを、実際の調査例に基づきながら、その基本的な事項について学ぶことになる。

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得は重要である。さらに、社会学の各専門分野に共通する、集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる視角（量的調査法）、少数事例の線密な検討から社会全体の把握へと向かう視角（質的調査法）、という二つの分析視角の獲得にも重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【授業計画】

1. 現代社会と社会調査
2. 社会調査の歴史
3. 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
4. 社会調査の種類と既存データの活用
5. 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
6. 測定と分析の基礎②仮説の構成
7. 測定と分析の基礎③記述と説明
8. 量的調査①種類と方法
9. 量的調査②サンプリングの論理
10. 量的調査③質問文の作成
11. 量的調査④調査票調査の実際
12. 質的調査①聴き取り調査
13. 質的調査②ドキュメント分析
14. 質的調査③参与観察
15. 調査結果の読み方

【成績評価の方法】

出席状況と筆記試験の結果を総合して評価する。

【テキスト】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会調査A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03 05	春学期 秋学期	2単位 2単位	木 下 栄 二

【講義概要・学習目標】

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義と用途、調査の歴史、具体的な方法、調査の倫理などを、実際の調査例に基づきながら、その基本的な事項について学ぶことになる。

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得は重要である。さらに、社会学の各専門分野に共通する、集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる視角（量的調査法）、少数事例の線密な検討から社会全体の把握へと向かう視角（質的調査法）、という二つの分析視角の獲得にも重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【授業計画】

1. 現代社会と社会調査
2. 社会調査の歴史
3. 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
4. 社会調査の種類と既存データの活用
5. 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
6. 測定と分析の基礎②仮説の構成
7. 測定と分析の基礎③記述と説明
8. 量的調査①種類と方法
9. 量的調査②サンプリングの論理
10. 量的調査③質問文の作成
11. 量的調査④調査票調査の実際
12. 質的調査①聴き取り調査
13. 質的調査②ドキュメント分析
14. 質的調査③参与観察
15. 調査結果の読み方

【成績評価の方法】

出席状況と筆記試験の結果を総合して評価する。詳細については初回の授業で説明する。

【テキスト】

大谷・木下・後藤・小松・永野『社会調査へのアプローチ 論理と方法（第2版）』ミネルヴァ書房

【参考文献】

谷岡一郎『「社会調査」のウン リサーチ・リテラシーのすすめ』文春新書

赤川学『子どもが減って何が悪いか！』ちくま新書

さ
行

科 目 名			
社会調査A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	春学期	2単位	竹 中 英 紀

【講義概要・学習目標】

この科目では、『社会調査入門』をめざして、社会調査の目的やその意義と用途、調査の歴史、具体的な方法、調査の倫理などを、実際の調査例に基づきながら、その基本的な事項について学ぶことになる。

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得は重要である。さらに、社会学の各専門分野に共通する、集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる視角（量的調査法）、少数事例の線密な検討から社会全体の把握へと向かう視角（質的調査法）、という二つの分析視角の獲得にも重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【授業計画】

- 1 現代社会と社会調査
- 2 社会調査の歴史
- 3 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
- 4 社会調査の種類と既存データの活用
- 5 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
- 6 測定と分析の基礎②仮説の構成
- 7 測定と分析の基礎③記述と説明
- 8 量的調査①種類と方法
- 9 量的調査②サンプリングの論理
- 10 量的調査③質問文の作成
- 11 量的調査④調査票調査の実際
- 12 質的調査①聴き取り調査
- 13 質的調査②ドキュメント分析
- 14 質的調査③参与観察
- 15 調査結果の読み方

【成績評価の方法】

出席状況と筆記試験の結果を総合して評価する。

【テキスト】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

【参考文献】

荻谷剛彦『知的複眼思考法』講談社
 谷岡一郎『「社会調査」のウソ』文春新書
 松本正生『「世論調査」のゆくえ』中央公論新社
 パオロ・マッツァリーノ『反社会学講座』イースト・プレス

科 目 名			
社会調査B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2単位	岩 田 考

【講義概要・学習目標】

社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。

質問紙調査法とは、いわゆる「アンケート調査」と考えてもらってかまわないが、むしろ、単純な世論調査（「はい」が何%、「いいえ」が何%）にとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会の中でいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。

この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使っての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

【授業計画】

1. 社会調査の企画・設計
2. 社会調査の実施方法
3. 問題意識の絞り込み
4. 仮説の検討
5. 質問文の作成
6. 調査票の完成
7. サンプリングの方法
8. 調査の実手順
9. 調査票の配布と回収
10. 調査データの整理
11. データ集計の基礎
12. 統計的検定と仮説の検証
13. 分析結果の発表
14. 発表へのコメント
15. 調査報告書の書き方

【成績評価の方法】

出席状況、共同作業への取り組み、期末レポートの内容などを総合して評価します。

【テキスト】

大谷信介ほか編著 1999 『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

【参考文献】

森岡清志編著 1998 『ガイドブック社会調査』日本評論社
 盛山和夫 2004 『社会調査法入門』有斐閣
 ボーンシュエット・ノーキ 1990 『社会統計学』ハーベスト社
 白谷秀一・朴相権編著 2002 『実践はじめての社会調査』自治体研究社
 ※その他、講義中に適宜紹介します。

科 目 名			
社会調査B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2単位	過 放

【講義概要・学習目標】

社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙（調査票）調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。

質問紙調査法とは、「はい」が何%、「いいえ」が何%などといった単純なものにとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会のなかでいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。この科目では、サンプリング、調査票・質問文の作り方、調査実施方法、調査データの整理法等について学ぶとともに、自らの関心に基づいて、実際に簡単な調査を実施することで、より深い理解に到達することを目標としている。

この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使っての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

【授業計画】

1. 社会調査の企画・設計
2. 社会調査の実施方法
3. 問題意識の絞り込み
4. 仮説の検討
5. 質問文の作成
6. 調査票の完成
7. サンプリングの方法
8. 調査の実施手順
9. 調査票の配布と回収
10. 調査データの整理
11. データ集計の基礎
12. 統計的検定と仮説の検証
13. 分析結果の発表
14. 発表へのコメント
15. 調査報告書の書き方

【成績評価の方法】

出席状況と共同作業への参加度、個別レポートの内容などを総合して評価する。

【テキスト】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会調査B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	秋学期	2単位	木 下 栄 二

【講義概要・学習目標】

社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙（調査票）調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。

質問紙調査法とは、「はい」が何%、「いいえ」が何%などといった単純なものにとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会のなかでいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。この科目では、サンプリング、調査票・質問文の作り方、調査実施方法、調査データの整理法等について学ぶとともに、自らの関心に基づいて、実際に簡単な調査を実施することで、より深い理解に到達することを目標としている。

この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使っての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

【授業計画】

1. 社会調査の企画・設計
2. 社会調査の実施方法
3. 問題意識の絞り込み
4. 仮説の検討
5. 質問文の作成
6. 調査票の完成
7. サンプリングの方法
8. 調査の実施手順
9. 調査票の配布と回収
10. 調査データの整理
11. データ集計の基礎
12. 統計的検定と仮説の検証
13. 分析結果の発表
14. 発表へのコメント
15. 調査報告書の書き方

【成績評価の方法】

出席状況と共同作業への参加度、個別レポートの内容および筆記試験の結果を総合して評価する。詳細については最初の授業で説明する。

【テキスト】

大谷・木下・後藤・小松・永野『社会調査へのアプローチ 論理と方法（第2版）』ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会調査B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	秋学期	2単位	竹中英紀

【講義概要・学習目標】

社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙（調査票）調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。

質問紙調査法とは、「はい」が何%、「いいえ」が何%などといった単純なものにとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会のなかでいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。この科目では、サンプリング、調査票・質問文の作り方、調査実施方法、調査データの整理法等について学ぶとともに、自らの関心に基づいて、実際に簡単な調査を実施することで、より深い理解に到達することを目標としている。

この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使っての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

【授業計画】

- 1 社会調査の企画・設計
- 2 社会調査の実施方法
- 3 問題意識の絞り込み
- 4 仮説の検討
- 5 質問文の作成
- 6 調査票の完成
- 7 サンプリングの方法
- 8 調査の実施手順
- 9 調査票の配布と回収
- 10 調査データの整理
- 11 データ集計の基礎
- 12 統計的検定と仮説の検証
- 13 分析結果の発表
- 14 発表へのコメント
- 15 調査報告書の書き方

【成績評価の方法】

出席状況と共同作業への参加度、個別レポートの内容などを総合して評価する。

【テキスト】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房（社会調査Aと共用）

【参考文献】

大谷信介編『これでいいのか市民意識調査』ミネルヴァ書房『世論調査年鑑』

『桃山学院大学社会調査実習報告書』

科 目 名			
社会調査実習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4単位	過 放

【講義概要・学習目標】

この科目は「社会調査A」「社会調査B」の単位取得者を対象に開講されるものである。少人数の演習形式によって、社会調査に関する深い知識と技法、特に統計解析諸技法の習得をめざす。授業では、(1)過去の調査実習報告書や研究論文などの輪読・検討を通して、基本的な資料とデータの分析、量的データ解析の基礎的な手法について学ぶとともに、(2)「社会科学のための統計パッケージ」(SPSS)を活用しながら、既存データの再集計と分析をおこなうことで、統計解析諸技法を使いこなせるようになることを目指す。また、秋学期の「社会調査実習II」に向けて、各自が社会調査の問題意識を持ち、学期末には調査計画書の提出を義務付ける。

なお、調査実習は講義科目とも演習科目とも異なり、正規の授業時間以外にもきわめて多くの共同学習や作業の時間を必要とするので、学生諸君には、それなりの心がまえをもって履習してもらいたい。遅刻や無断欠席、不真面目な受講態度などは履修放棄とみなし、学期途中であっても除名する。

【授業計画】

- 1 実習の計画（必要な場合は実習生のグループ分け）
- 2 過去の調査報告書の検討 ①問題意識と仮説を学ぶ
- 3 過去の調査報告書の検討 ②問題意識と仮説を学ぶ
- 4 過去の調査報告書の検討 ①記述統計データの読み方・まとめ方（単純集計・度数分布）
- 5 過去の調査報告書の検討 ②記述統計データの読み方・まとめ方（代表値・平均値・分散）
- 6 過去の調査報告書の検討 ③記述統計データの読み方・まとめ方（クロス集計・比率の差）
- 7 過去の調査報告書の検討 ①相関関係と因果関係、疑似相関の概念（クラマー係数、ファイ係数）
- 8 過去の調査報告書の検討 ②相関関係と因果関係、疑似相関の概念（ピアソン係数、ケンドール係数）
- 9 過去の調査報告書の検討 ③相関関係と因果関係、疑似相関の概念
- 10 研究論文の検討 ①統計データの社会学的分析法
- 11 研究論文の検討 ①多変量解析の基礎（重回帰分析）
- 12 研究論文の検討 ②多変量解析の基礎（因子分析、主成分分析）
- 13 研究論文の検討 ①さまざまな計量モデルを学ぶ（重回帰、ロジット回帰）
- 14 研究論文の検討 ②さまざまな計量モデルを学ぶ（数量化理論）
- 15 既存データの再集計 ①SPSSの基礎
- 16 既存データの再集計 ①SPSSの基礎
- 17 既存データの再集計 ①SPSSの応用
- 18 既存データの再集計 ②SPSSの応用
- 19 既存データの再集計 ①SPSSのプログラミング
- 20 既存データの再集計 ②SPSSのプログラミング
- 21 既存データの再集計 ③SPSSのプログラミング
- 22 データ分析と仮説検証 ①問題意識と仮説
- 23 データ分析と仮説検証 ①統計的検定
- 24 データ分析と仮説検証 ②統計的検定
- 25 データ分析と仮説検証 ①因果関係のエラボレーション
- 26 データ分析と仮説検証 ②因果関係のエラボレーション
- 27 データ分析と仮説検証 ①多変量解析の実際（重回帰分析）
- 28 データ分析と仮説検証 ②多変量解析の実際（因子分析、主成分分析）
- 29 データ分析と仮説検証 ①分析結果のまとめ・発表
- 30 データ分析と仮説検証 ②分析結果のまとめ・発表

【成績評価の方法】

実習活動への参加（毎回の出席は最低条件）と、小レポートなどの提出物、発表内容、学期提出の調査計画書（4000字程度）によって評価する。

【テキスト】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会調査実習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期集中	4単位	脇 穂 積

【講義概要・学習目標】

この科目は「社会調査A」「社会調査B」の単位取得者を対象に開講されるものである。少人数の演習形式によって、社会調査に関する深い知識と技法、特に統計解析技法の習得をめざす。授業では、(1) 過去の調査実習報告書や研究論文などの輪読・検討を通して、基本的な資料とデータの分析、量的データ解析の基礎的な手法について学ぶとともに、(2) 「社会科学のための統計パッケージ」(SPSS) を活用しながら、既存データの再集計と分析をおこなうことで、統計解析技法を使いこなせるようになることを目指す。また、秋学期の「社会調査実習II」に向けて、各自が社会調査の問題意識を持ち、学期末には調査計画書の提出を義務付ける。

なお、調査実習は講義科目とも演習科目とも異なり、正規の授業時間以外にもきわめて多くの共同学習や作業の時間を必要とするので、学生の皆様には、それなりの心がまえをもって履習していただきたい。遅刻や無断欠席、不真面目な受講態度などは履習放棄とみなし、学期途中でであっても除名する。

【授業計画】

- 1 実習の計画 (必要な場合は実習生のグループ分け)
- 2 過去の調査報告書の検討 ①問題意識と仮説を学ぶ
- 3 過去の調査報告書の検討 ②問題意識と仮説を学ぶ
- 4 過去の調査報告書の検討 ①記述統計データの読み方・まとめ方 (単純集計・度数分布)
- 5 過去の調査報告書の検討 ②記述統計データの読み方・まとめ方 (代表値・平均値・分散)
- 6 過去の調査報告書の検討 ③記述統計データの読み方・まとめ方 (クロス集計・比率の差)
- 7 過去の調査報告書の検討 ①相関関係と因果関係、疑似相関の概念 (クラマー係数、ファイ係数)
- 8 過去の調査報告書の検討 ②相関関係と因果関係、疑似相関の概念 (ピアソン係数、ケンドール係数)
- 9 過去の調査報告書の検討 ③相関関係と因果関係、疑似相関の概念
- 10 研究論文の検討 ①統計データの社会的分析法
- 11 研究論文の検討 ①多変量解析の基礎 (重回帰分析)
- 12 研究論文の検討 ②多変量解析の基礎 (因子分析、主成分分析)
- 13 研究論文の検討 ①さまざまな計量モデルを学ぶ (重回帰、ロジット回帰)
- 14 研究論文の検討 ②さまざまな計量モデルを学ぶ (数量化理論)
- 15 既存データの再集計 ①SPSSの基礎
- 16 既存データの再集計 ②SPSSの基礎
- 17 既存データの再集計 ①SPSSの応用
- 18 既存データの再集計 ②SPSSの応用
- 19 既存データの再集計 ①SPSSのプログラミング
- 20 既存データの再集計 ②SPSSのプログラミング
- 21 既存データの再集計 ③SPSSのプログラミング
- 22 データ分析と仮説検証 ①問題意識と仮説
- 23 データ分析と仮説検証 ①統計的検定
- 24 データ分析と仮説検証 ②統計的検定
- 25 データ分析と仮説検証 ①因果関係のエラボレーション
- 26 データ分析と仮説検証 ②因果関係のエラボレーション
- 27 データ分析と仮説検証 ①多変量解析の実際 (重回帰分析)
- 28 データ分析と仮説検証 ②多変量解析の実際 (因子分析、主成分分析)
- 29 データ分析と仮説検証 ①分析結果のまとめ・発表
- 30 データ分析と仮説検証 ②分析結果のまとめ・発表

【成績評価の方法】

実習活動への参加 (毎回の出席は最低条件) と、小レポートなどの提出物、発表内容、学期提出の調査計画書 (4000字程度) によって評価する。

【テキスト】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

【参考文献】

なし

科 目 名			
社会調査実習 II			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期集中	4単位	過 放

【講義概要・学習目標】

この科目は、「社会調査実習I」の単位取得者を対象に、そこで提出された調査計画書に基づいて、実際にデータを収集・分析することを課題とし、社会調査に関する深い知識と技法の習得をめざす。調査の企画から報告書の作成にまでいたる調査の全過程の体験実習は、この科目によって完結すると思っていたいただきたい。問題構成や仮説を検証する手続きが妥当であること、SPSSおよびエクセルを使いこなせること、分析結果の解釈が妥当であることなどが評価の重要なポイントである。

なお、8000字以上の調査報告レポートが、単位認定のために必須なものとなる。勉学への努力を惜しまない学生諸君の受講を期待する。

【授業計画】

少人数の演習形式によって、基本的には (1) 問題意識と仮説の絞り込み、(2) 質問文・調査票の作成、(3) 調査票の配布と回収、(4) データの整理・集計・分析、(5) 分析結果のプレゼンテーション、(6) 報告書の執筆という段階をおおっていくことになる。「社会調査実習I」との継続科目なので、各自の調査計画書を出来る限り尊重するが、実査は参加学生全体でおこなう。そのため調査実施のためのチームワークも重要な評価ポイントとなる。

調査プラン (調査の企画・設計案)

1. 調査のテーマ/領域: 1994年度より実施している「大学生の生活と意識」調査を継続して実施する。
2. 調査の内容/概要: 調査票調査によって、主として大学生の「国際化に関する意識」と「人間関係の実態把握」等を計量的に分析する。
3. 調査の範囲/対象: 本学学生が主要な対象となるが、比較のために他大学の学生、あるいは学生の父兄なども対象に加えることも検討している。
4. 主な調査項目: 国際化に関する意識、海外体験、家族関係、友人関係等
5. データ収集 (現地調査) の方法: 調査票の郵送調査か、場合によって授業時間を利用した集合調査によってデータを収集する。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数: 実査は10月後半ないし11月初旬を目途におこなう。
7. 調査における学生のかかわり/役割: 主役である。主体的に調査設計・データ収集・分析にかかわることが重要である。
8. その他の特記事項: 本学では、参加学生が主体的に調査に取り組むことで、問題設定から報告書作成までの一連のプロセスをすべて学習させることを目指している。そのため、参加学生によっては、若干上記のテーマと異なる場合があることなどもご了解願いたい。

【成績評価の方法】

実習活動への参加 (毎回の出席は最低条件) と、小レポートなどの提出物、発表内容、報告書の論文 (400字詰め20枚程度以上) によって評価する。

【テキスト】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会調査実習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4単位	脇 穂 積

【講義概要・学習目標】

この科目は、「社会調査実習Ⅰ」の単位取得者を対象に、そこで提出された調査計画書に基づいて、実際にデータを収集・分析することを課題とし、社会調査に関する深い知識と技法の習得をめざす。調査の企画から報告書の作成にまでいたる調査の全過程の体験実習は、この科目によって完結すると思っただきたい。問題構成や仮説を検証する手続きが妥当であること、SPSSおよびエクセルを使いこなせること、分析結果の解釈が妥当であることなどが評価の重要なポイントである。

なお、8000字以上の調査報告レポートが、単位認定のために必須なものとなる。勉学への努力を惜しまない学生諸君の受講を期待する。

【授業計画】

少人数の演習形式によって、基本的には(1)問題意識と仮説の絞り込み、(2)質問文・調査票の作成、(3)調査票の配布と回収、(4)データの整理・集計・分析、(5)分析結果のプレゼンテーション、(6)報告書の執筆という段階をおっていくことになる。「社会調査実習Ⅰ」との継続科目なので、各自の調査計画を出来る限り尊重するが、実査は参加学生全体でおこなう。そのため調査実施のためのチームワークも重要な評価ポイントとなる。

調査のテーマは、1994年度より実施している「大学生の生活と意識」調査を継続して実施する。具体的には、調査票を用い、主として大学生の「職業に関する意識」や「結婚観」等を計量的に分析する。調査対象者としては、本学学生が主となるが、比較のために他大学の学生、あるいは学生の父兄なども対象に加えることも検討している。

【成績評価の方法】

実習活動への参加（毎回の出席は最低条件）と、小レポートなどの提出物、発表内容、調査報告レポート（8000字以上）によって評価する。

【テキスト】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

【参考文献】

なし

科 目 名			
社会調査特講－質的調査法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	過 放

【講義概要・学習目標】

今年度の講義では、質的調査法の種類と実例、特に聞き取り調査の技法、参与観察法とドキュメント分析法を中心に、それぞれの技法の特徴や調査実施上の倫理など、基礎的知識について学ぶ。調査の企画、調査技法の選定と調査項目の設定、調査の実施、インタビューなどのフィールドワーク、フィールドノートの書き方、報告書の作成など調査方法について具体的に学ぶとともに体験実習を通して理解を深める。

この授業は、「社会調査実習」を履修している者、履修した者を念頭に行う。なお授業では、受講生個人を単位に、あるいは小グループを編成して、調査の実施とそのデータ分析に取り込む方法をとる。したがって授業への出席のみならず、授業時間外にも調査作業や、グループの連携性・協調性が不可欠の必要条件である。

【授業計画】

1. 質的調査法に関する概説
2. 聞き取り調査とその特徴
3. 聞き取り調査の技法
4. 聞き取り調査のデータ分析
5. インタビュー法
6. ライフヒストリーの分析
7. フィールドワークの技法
8. 参与観察法とは
9. 参与観察法の進め方
10. 参与観察法のデータ収集と分析
11. さまざまなドキュメント分析
12. ドキュメント分析の調査企画
13. ドキュメント分析の技法
14. ドキュメント分析のデータ収集と分析
15. 事例研究

【成績評価の方法】

出席状況・授業時の態度及びレポートの結果を総合して評価する。詳細については最初の授業の際に説明する。

【テキスト】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会調査特講－統計解析法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	木 下 栄 二

【講義概要・学習目標】

本講義では、現在の社会調査の主流をなす調査票調査によって得られたデータに対する統計的解析法の基礎知識の習得を目標とする。コンピュータの発達によって、誰でも手軽に複雑な分析を行えるようになってきたが、その結果を正しく読み解くためには、統計学や確率論に関する基礎知識とデータの特性に合わせた分析技法の習得が必須である。

ここでの主要な習得課題は、集団と集団を比較するための基本統計量、確率論の基礎、特に正規分布に対する理解、統計的推定・統計的検定の考え方、量的変数と質的変数の区分とその分析法、そして2変数間の関連の見方を越えた3変数以上の関連をみるための基礎知識などである。

授業は、「社会調査実習」を履修している者、履修した者を念頭に行う。文科系の学生にはややハードなものになるかも知れない。適宜、コンピュータも使用するが、原則としては手計算によって、統計解析の理論を身につけてもらいたいと考えている。

【授業計画】

- 1 基本統計量（算術平均、分散、標準偏差、偏差値）
- 2 確率論基礎①（確率の発想と二項分布）
- 3 確率論基礎②（正規分布と中心極限定理）
- 4 統計的推定とサンプリング理論
- 5 統計的検定の理論（比率の差の検定）
- 6 量的変数と質的変数（分析手法の概観）
- 7 質的変数と量的変数との関連①（平均値の差の検定）
- 8 質的変数と量的変数との関連②（分散分析、F検定）
- 9 質的変数と質的変数との関連①（クロス表の見方と属性相関係数）
- 10 質的変数と質的変数との関連②（独立性の χ^2 検定）
- 11 質的変数と質的変数との関連③（第3変数の導入、エラボレーション）
- 12 量的変数と量的変数との関連①（回帰分析の基礎）
- 13 量的変数と量的変数との関連②（ピアソンの積率相関係数）
- 14 量的変数と量的変数との関連③（第三変数の導入、偏相関係数）
- 15 多変量解析法の概観（重回帰分析と因子分析の基礎）

【成績評価の方法】

学期末試験80%、小テスト10%、授業態度10%（授業態度の不真面目なものは即刻除名処分とするので注意すること）

【テキスト】

特に指定しないが、参考文献のうち2冊以上を読了しておくことが望ましい。

【参考文献】

P・G・ホーエル（浅井・村上訳）『初等統計学』培風館
 得津一郎『はじめての統計』有斐閣ブックス
 芝村良『R. A. フィッシャー統計理論』九州大学出版会
 原純輔・海野道郎『社会調査演習（第2版）』東京大学出版会
 ジョエル・ベスト（林訳）『統計はこうしてウソをつく だまされないための統計学入門』白揚社

科 目 名			
社会病理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	島 中 宗 一

【講義概要・学習目標】

社会病理学を臨床社会学として展開する。臨床社会学は、社会病理学が固有に内在させてきた問題意識を、介入プロセスを視野に入れた社会学の行為として特化させた領域である。社会病理現象を臨床社会的アプローチによって問題解決を志向する方法を学習する。

臨床社会学の特徴の第一は、介入プロセスの採用にある。第二は、生物学的・心理学的・社会的アプローチの相互作用である。第三は、ミクロ・メゾ・マクロ水準の相互作用である。第二と第三の相互作用のなかで、病理現象の全体像を析出し、問題解決のための見取り図を描き、実際の介入によって、問題を解決していく営為が、臨床社会学の方法である。本講義では、ミクロ・メゾ水準の社会病理現象を素材に取上げ、臨床社会的アプローチの実際を学習する。

【授業計画】

1. 社会病理学への臨床社会学の貢献
2. 富裕化社会の社会病理現象
3. 臨床社会学の歴史
4. 臨床社会学の方法
5. 摂食障害
6. アルコール問題
7. 子ども虐待
8. 老人虐待
9. 犯罪
10. 臨床社会学とフィールド研
11. 専門性の問題
12. 隣接科学と臨床社会学

【成績評価の方法】

試験

【テキスト】

島中宗一・清水新二・広瀬卓爾編『社会病理学講座第4巻 社会病理学と臨床社会学：臨床と社会学的研究のブリッジング』学文社 2004

科 目 名			
社会福祉援助技術演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	—	新 崎 国 広

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【授業計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席・授業への意欲

【テキスト】

『77のワークで学ぶ対人援助ワークブック』久美出版

【参考文献】

・『施設ボランティアコーディネーションのめざすもの』

科 目 名			
社会福祉援助技術演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	—	大 垣 芳 美

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【授業計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席・授業態度・レポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】

社会福祉教育方法・教材開発研究会編集「新社会福祉援助技術演習」中央法規

【参考文献】

適宜授業で紹介する。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	—	大 西 雅 裕

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【授業計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

授業への出席を重視し、課題への取り組み状況、レポート等の提出および課題達成状況等々による総合的評価を行う。

【テキスト】

対人援助実践研究会HEART編
77のワークで学ぶ「対人援助ワークブック」
久美出版

【参考文献】

適宜授業で紹介する。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	通期	—	金 澤 ますみ

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【授業計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

授業への参加状況、(出席率・とりくみの姿勢等)、レポート等の提出物により総合的に評価する。

【テキスト】

河野秀忠『障害児教育創作教材 しまったあ 風編』「そよ風のように街に出よう」編集部・発行、1996年。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	通期	—	川 東 光 子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【授業計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

授業、課題に対する参加状況（出席率・とりくむ姿勢）レポート等により、総合的に評価する。

【テキスト】

授業時に提示する。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	通期	—	黒 田 隆 之

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【授業計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席、授業への参加状況、課題レポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

授業時に提示する。

【参考文献】

授業時に提示する。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	通期	—	武 田 祐 子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【授業計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席、講義（演習）への参加態度、提出物（レポート等）

科 目 名			
社会福祉援助技術演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	通期	—	鶴 宏 史

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【授業計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席・授業態度・レポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】

適宜紹介する。

【参考文献】

- ①山田容『ワークブック社会福祉援助技術演習①対人援助の基礎』ミネルヴァ書房、2003年。
- ②対人援助実践研究会HEART『対人援助ワークブック』久美株式会社、2003年。

【備考】

無断欠席・遅刻のないように。

さ
行

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	8単位	新 崎 国 広

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【授業計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席、授業への意欲

【テキスト】

『77のワークで学ぶ対人援助ワークブック』久美出版

【参考文献】

- ・『施設ボランティアコーディネーションのめざすもの』久美出版
- ・『福祉教育のすすめ』ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	8単位	大 西 雅 裕

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【授業計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

授業への出席を重視し、課題への取り組み状況、レポート等の提出および課題達成状況等々による総合的評価を行う。

【テキスト】

対人援助実践研究会HEART編
77のワークで学ぶ「対人援助ワークブック」
久美出版

【参考文献】

適宜授業で紹介する。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	8単位	金 澤 ますみ

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【授業計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

授業への参加状況、(出席率・とりくみの姿勢等)、レポート等の提出物により総合的に評価する。

【テキスト】

『社会福祉小六法 2006』ミネルヴァ書房

川畑聡一郎『S60 (ソーシャルワーカー) チルドレン 2』講談社、2004年。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

【備考】

前半は、主に児童問題をとりあげる。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	通期	8単位	川 東 光子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【授業計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

授業、課題に対する参加状況（出席率・とりくむ姿勢）レポート等により、総合的に評価する。

【テキスト】

授業時に提示する。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	通期	8単位	武 田 祐 子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【授業計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席、講義（演習）への参加態度、提出物（レポート等）

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	通期	8単位	鶴 宏 史

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【授業計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席・授業態度・レポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】

適宜紹介する。

【参考文献】

- ①倉石哲也『ワークブック社会福祉援助技術演習③家族ソーシャルワーク』ミネルヴァ書房、2004年。
- ②岩間伸之『ワークブック社会福祉援助技術演習④グループワーク』ミネルヴァ書房、2004年。
- ③筒井のり子『ワークブック社会福祉援助技術演習⑤コミュニティソーシャルワーク』ミネルヴァ書房、2004年。

【備考】

無断欠席・遅刻のないように。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	通期	8単位	石 田 易 司

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【授業計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席

【テキスト】

アイスブレイク（エルピス社）

ラーニング パイ ドゥーイング（エルピス社）

【参考文献】

社会福祉援助技術演習（中央法規）

社会福祉援助技術演習（ミネルヴァ書房）

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	通期	8単位	安 原 佳 子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【授業計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

授業、課題に対する参加状況（出席率・とりくみの姿勢）レポート等により、総合的に評価する。

【テキスト】

授業時に提示する。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する

科 目 名			
社会福祉援助技術現場実習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	石 田 易 司
02	通期	2単位	伊 藤 高 章
03	通期	2単位	川 井 太加子
04	通期	2単位	黒 田 隆 之
05	通期	2単位	坪 山 孝
06	通期	2単位	松 端 克 文

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
- 2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力技術を習得する。
- 3 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。

【授業計画】

- 1 実習オリエンテーション
- 2 視聴覚学習
- 3 社会福祉現場で働く社会福祉士からの講話
- 4 現場体験学習
- 5 見学実習
- 6 見学実習記録に基づくレポートの作成
- 7 全体総括

【成績評価の方法】

出席重視
レポート等で総合的に評価

【テキスト】

授業時指定する

科 目 名			
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2単位	安 原 佳 子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
- 2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力技術を習得する。
- 3 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。

【授業計画】

- 1 配属実習オリエンテーション
- 2 専門援助技術実技指導
- 3 面接実技指導
- 4 記録実技指導
- 5 評価・効果測定実技指導
- 6 配属実習
- 7 実習記録に基づく実習の総括レポートの作成
- 8 レポートに基づく個別指導
- 9 全体総括会

【成績評価の方法】

全出席（学内・学外）が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告・総括会・実習先評価を総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

授業時指定する。

科 目 名			
社会福祉援助技術現場実習Ⅲ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	荒川 輝 男
02	通期	2単位	大野 洋
03	通期	2単位	阪野 学
04	通期	2単位	西浦 太一
05	通期	2単位	村田 智美
06	通期	2単位	山本 晃文
07	通期	2単位	松端 克隆
08	通期	2単位	黒田 隆之
09	通期	2単位	安原 佳子
10	通期	2単位	佐竹 紀美子
11	通期	2単位	川東 光子
12	通期	2単位	金澤 ますみ
13	通期	2単位	三矢 陽子
14	通期	2単位	葛城 隆雄
15	通期	2単位	森田 靖久
16	通期	2単位	道中 隆史
17	通期	2単位	脇坂 博史

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
- 2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力技術を習得する。
- 3 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。

【授業計画】

- 1 配属実習オリエンテーション
- 2 専門援助技術実技指導
- 3 面接実技指導
- 4 記録実技指導
- 5 評価・効果測定実技指導
- 6 配属実習
- 7 実習記録に基づく実習の総括レポートの作成
- 8 レポートに基づく個別指導
- 9 全体総括会

【成績評価の方法】

全出席（学内・学外）が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告・総括会、実習先評価を総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

授業時指定する。

科 目 名			
社会福祉援助技術現場実習Ⅳ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2単位	川井 太加子

【講義概要・学習目標】

1. 保健医療の領域におけるソーシャルワークの現状を把握する。
2. 各医療機関の機能や業務の特徴を理解する。
3. 必要な社会資源について、その枠組みを理解する。
4. ソーシャルワークの価値や倫理について具体的に考察する。
5. ソーシャルワークの意義や役割について実習体験を基に理解する。
6. 対象領域別に必要な知識を整理し、把握する。
7. チーム医療のあり方について学習する。

【授業計画】

[実習前課題]

1. 実習目標の明確化。
2. 言葉遣いなどのマナーを習得する。
3. 医療機関の機能や特徴を理解する。
4. 基本的な医療保険・所得保障制度を理解する。

[実習後課題]

1. 実習体験の報告に基づき、クラス討論を実施する。
2. 実習記録の書き方を学ぶ。
3. 実習記録を基に、必要な情報やアセスメント等ソーシャルワークの視点を確認する。
4. 学習目標に沿って、各自の学習を深め整理する。
5. 実習報告会に向けての準備を行なう。

【成績評価の方法】

実習機関での評価、授業への参加度、理解度等を総合的に評価する。

【テキスト】

日本医療ソーシャルワーク研究会編「介護保険時代の医療福祉総合ガイドブック」医学書院

【参考文献】

適宜授業で紹介する。

さ
行

科 目 名			
社会福祉援助技術論 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	—	石 田 易 司

【講義概要・学習目標】

- この授業を2年間継続して履修し、以下の目標を達成する。
1. 基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係形成を図るための方法について理解させる。
 2. 人権尊重、権利擁護、自立支援等の観点を踏まえた社会福祉サービスと援助活動の関係について、理解させる。
 3. 福祉専門職と専門援助技術の関係について理解させる。
 4. 社会福祉援助活動の展開過程を重視しながら、その目的・価値・原則及び体系とそこにおける共通課題について理解させる。
 5. 社会福祉援助活動における専門技術の体系について理解させる。
 6. 社会福祉援助技術に由来する倫理について理解させる。

【授業計画】

1. 社会福祉サービスと援助活動の関係
 2. 福祉専門職と専門援助技術の関係
 3. 専門援助技術の歴史的展開
 4. 社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程と共通課題
 - 1) 社会福祉援助活動の目的と価値
 - 2) 社会福祉援助活動の原則（人権尊重・権利擁護・自立支援等を含む）
 - 3) 社会福祉援助活動の展開過程
 - ① 援助開始時の面接（インタビュー）と事前評価（アセスメント）
 - ② 援助計画の作成
 - ③ 援助活動の実施
 - ④ 援助活動の評価
 - 4) 社会福祉援助活動の共通課題
 - ① 契約・介入・課題の意義と方法
 - ② 面接の意義と方法
 - ③ 記録の意義と方法
 - ④ 評価の意義と方法
 - ⑤ 専門職相互による助言協力（スーパービジョン）の意義と方法
 - ⑥ 個別事象の継続的援助（ケースマネジメント）の意義と方法
 5. 専門援助技術の体系及び内容
 - 1) 直接援助技術
 - ① 個別援助技術（ケースワーク）
 - ② 集団援助技術（グループワーク）
 - 2) 間接援助技術
 - ① 地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技法
 - イ 地域援助技術の概念と基本的性格
 - ロ 地域社会の組織化
 - ハ 地域援助技術
 - ニ 社会活動法
 - ② 社会福祉調査法の理論と技術
 - イ 社会福祉調査の基本的性格と類型
 - ロ 統計調査法における調査技術
 - ハ 事例調査における調査技術
 - ③ 社会福祉の運営管理（ソーシャル・アドミニストレーション）と社会福祉計画の技術
 - 3) その他の関連専門援助技術（介護保険法における居宅サービス計画及び施設サービス計画を含む）
6. 社会福祉援助活動の場と専門援助技術
7. 専門援助技術と倫理
8. 専門援助技術の統合化とチームにおける対応
9. 専門援助技術をめぐる我が国及び諸外国の動向

【成績評価の方法】

出席と期末のレポート

【テキスト】

ラーニング バイ ドゥーイング（エルピス社）
さかさまの星座（オモドック）

【参考文献】

ジェネラリスト・ソーシャルワーク ミネルヴァ書房
ルイズC. ジョンソン/ステファンJ. ヤンカ 著
社会福祉援助技術総論 中央法規

科 目 名			
社会福祉援助技術論 II			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	8単位	藤 田 満

【講義概要・学習目標】

1. 個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術について、最新の情報を入れながら具体的方法論を学ぶ。
2. 社会福祉調査法、社会福祉計画、社会福祉運営管理、社会活動法、ケアマネジメント、スーパービジョン等の技術論、方法論について詳しく学習し、実践に役立つ知識、技術を身につける。
3. 具体的事例を多くこなすことにより、実践感覚を身につける。

【授業計画】

1. 社会福祉援助技術の意義と機能
2. 社会福祉援助技術の実践領域と適応領域
3. 個別援助技術の展開過程
4. 集団援助技術の展開過程
5. 地域援助技術の援助原則と具体的展開
6. 社会福祉調査法の理論と技術
7. 社会福祉計画の理論と技術
8. 社会福祉の運営管理
9. 社会活動法の理論と技術
10. ケアマネジメントの目的と概念
11. ケアマネジメントの構成要素と過程
12. スーパービジョン
13. 効果測定と評価

【成績評価の方法】

出席、レポート、試験の総合的評価を行う。

【テキスト】

福祉士養成講座編集委員会編『新版 社会福祉士養成講座9 社会福祉士援助技術論II』（中央法規）

【参考文献】

適宜紹介する。

科 目 名			
社会福祉行財政論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	柴 田 幹 男

【講義概要・学習目標】

- ①社会福祉行財政の基本的仕組み、歴史の変遷、今日的課題等について、その概要を理解する。
- ②地方自治体における社会福祉行財政の実情を、具体例を踏まえながら理解する。
- ③社会福祉の主要な分野における各制度の概要とその課題について理解する。又、その持続可能性等について、負担のあり方やニーズ適応性などの視点から分析し考察する。

【授業計画】

- ①社会保障制度の現状と課題を考える
- ②社会福祉行財政の仕組みと今日的課題について考える
- ③社会福祉制度の歴史と「社会福祉基礎構造改革」を考える
- ④介護保険制度の現状と課題を考える
- ⑤障害者自立援助制度の現状と課題を考える
- ⑥生活保護制度の現状と課題を考える
- ⑦次世代育成支援対策の現状と課題を考える
- ⑧その他の社会福祉制度の現状と課題について考える

【成績評価の方法】

出席と試験で総合的に評価する

【テキスト】

レジュメ等を配布する

【参考文献】

講義中に紹介する

科 目 名			
社会福祉計画論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	福 田 公 教

【講義概要・学習目標】

本講では、日本における福祉計画の変遷と近年の動向および計画策定から評価までの一連の流れを概観する。

社会福祉の分野では、2000年の社会福祉法の成立により、法的にも本格的に「地域福祉の推進」が指向されることとなった。つまり、市町村が地域福祉計画、都道府県が地域福祉支援計画を策定することとなった。この状況をふまえて、本講では、地域福祉計画、地域福祉支援計画が生まれてくる社会的背景を明らかにするとともに、この計画の概要、策定方法、他計画との関係、評価、財政やローカル・ガバナンスとの関係を明らかにすることを目的としている。

社会計画のうち地域福祉計画では、単なる資源の量的拡大だけを目的とするのではなく、その有効活用や地域におけるネットワークへの視点が必要となる。したがって、本講では、ソーシャルワーカーにとっての社会計画という観点からコミュニティワークの観点もふまえ分析・検討する。

【授業計画】

1. 戦後の日本の社会政策・制度の概観
2. 少子高齢社会の抱える課題の分析
3. 社会福祉計画の概要
4. 福祉3プランおよび民間計画の概要
5. 社会福祉計画と関連計画
6. 社会福祉計画におけるニーズと資源
7. 社会福祉計画の策定プロセス
8. ソーシャルワーカーと計画
9. 住民参加の技法
10. コミュニティ・ミーティング
11. 社会福祉計画における評価
12. 社会福祉計画と財政
13. ガバナンス時代の社会福祉
14. 学生による課題発表

【成績評価の方法】

出席、レポートおよび試験の総合評価とする。

【テキスト】

上野谷加代子・松端克文・山縣文治編『よくわかる地域福祉』ミネルヴァ書房、2004。

【参考文献】

山縣文治・柏女霊峰編『社会福祉用語辞典』ミネルヴァ書房。
ミネルヴァ書房編集部編『社会福祉小六法2006』ミネルヴァ書房。

さ
行

科 目 名			
社会福祉原論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	松 本 眞 一

【講義概要・学習目標】

- 1 現代社会における社会福祉の理念と意義について事例や演習形式等を活用し理解させる。
- 2 社会福祉の対象と援助の形態及び方法について理解させる。
- 3 社会福祉サービス体系と利用者保護制度の仕組みの概要について理解させる。
- 4 社会福祉の専門性と倫理について理解させる。
- 5 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容について理解させる。
- 6 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解させる。
- 7 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向について理解させる。

【授業計画】

- 1 現代社会と社会福祉
 - 1) 社会福祉の理念（人権尊重、権利擁護、自立支援等）とその発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 社会福祉対象の把握方法
- 3 社会福祉援助の具体的な形態と方法
- 4 社会福祉援助活動における専門性と倫理
 - 1) 専門性と専門職の内容
 - 2) 職業観及び勤労観
 - 3) 保健・医療等関連分野の専門職との連携のあり方
 - 4) 社会福祉援助活動と倫理
- 5 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容
- 6 社会福祉関係法制と実施体制及び財政の概要
 - 1) 社会福祉事業法・福祉六法及び関連法規の内容及び相互関係
 - 2) 社会福祉の実施体制
 - 3) 社会福祉の財政と費用負担
 - 4) 社会保障制度
- 7 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向

【成績評価の方法】

期末試験により評価するが、出席点も加味される。

【テキスト】

山縣文治・岡田忠克編『よくわかる社会福祉』（第4版）ミネルヴァ書房

【参考文献】

社会福祉士養成講座1『社会福祉原論』（第4版）中央法規
松本眞一編著『現代社会福祉論』（改訂版）ミネルヴァ書房

科 目 名			
社会福祉施設経営論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	坪 山 孝

【講義概要・学習目標】

社会福祉施設は介護保険制度や支援費制度によって経営することを求められる時代になった。社会福祉施設の経営についてサービス・人事・労務・財務等の諸管理について講義して、総合的に社会福祉施設の経営管理を学習する契機としたい。
社会福祉施設の新しい課題である利用者本位のサービス・苦情対応・リスクマネジメント・第三者評価事業などについても講義する。

【授業計画】

- 1 社会福祉施設の経営と社会福祉法人制度
- 2 利用者のニーズとサービス管理
- 3 社会福祉施設の組織・人事管理
- 4 社会福祉施設の財務管理
- 5 社会福祉施設と地域社会
- 6 社会福祉施設の建物・設備管理

【成績評価の方法】

学期末試験による

【テキスト】

講義時に適宜配布すると同時に紹介する

【参考文献】

社会福祉施設運営（経営）論
社会福祉学習双書（全国社会福祉協議会）2005

科 目 名			
社会福祉施設サービス論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	松 端 克 文

【講義概要・学習目標】

本講は社会福祉施設での支援論あるいはサービス論である。今日、日本の社会福祉従事者は140万人を超えているが、その7割以上が社会福祉施設の職員である。本学の卒業生の就職先も大半が社会福祉施設である。

日本では、今日でも社会福祉施設が重要な位置を占めているにもかかわらず、社会福祉施設の職員が（大学で学んだ知識や技術を活かして）ソーシャルワークの実践をしていくという観点から整理され、体系化された理論や方法はほとんどない。また、地域福祉の重要性が指摘されているにもかかわらず、社会福祉施設と地域福祉との関係が積極的に論じられることもほとんどない状況である。

そこで本講では、介護保険法改正や障害者自立支援法の内容を分析した上で、ソーシャルワーク実践の場としてのこれからの社会福祉施設での支援・サービスの方向を地域福祉の観点もふまえて明らかにしていく。

【授業計画】

1. 社会福祉施設の概要—歴史、制度体系と種別、利用者数など
2. 社会福祉施設サービス・運営の仕組みと課題
3. ノーマライゼーションの思想と脱施設化
4. 介護保険制度改正と社会福祉施設
5. 障害者自立支援法と社会福祉施設
6. 社会福祉施設と地域福祉
7. 社会福祉施設におけるソーシャルワーク実践
8. ケアプラン、個別支援計画の考え方と書き方
9. 社会福祉施設のサービス評価、苦情解決の仕組み、オンブズマンの活動
10. 事例検討

【成績評価の方法】

出席と試験で総合に評価する。

【テキスト】

松端克文『障害者の個別支援計画の考え方・書き方』日総研、2004。

【参考文献】

講義中に紹介する。

科 目 名			
社会福祉特講—マスコミから見た福祉課題			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	坪 山 孝

【講義概要・学習目標】

本講は、読売新聞社により提供されるものである。

今日の日本の社会保障・社会福祉は、少子高齢社会の到来や低経済成長を背景に、大きな変革期を迎えている。それだけに各種の制度改革の動向や内容、あるいは私たちの抱える多様化し、深刻化している生活課題・福祉課題の内容を把握することは極めて重要である。

そこで本講では、読売新聞社の編集委員の方を中心に、現場の記者や論説委員をお招きし、年金や医療、介護保険、子育て支援など社会保障や社会福祉に関する最新の情報をさまざまな観点から講義していただく。

現実に社会のなかで生じている事象をおさえながら、これからの社会や福祉のあり方を考える講義なので、福祉領域で専門職として働くことを目指している学生や社会福祉士の受験をめざしている学生の受講を歓迎する。

【授業計画】

1. ホームレスと生活保護
2. 少子高齢社会と年金改革
3. 介護保険改革の内容と課題
4. 在宅、施設、第三の住まい
5. 女性と雇用
6. 子育て支援
7. ヨーロッパの社会保障
8. 医療ルネサンス
9. 医療倫理と職業倫理
10. ガンと病名告知
11. 治安悪化と高齢者
12. シニアと国際協力 など

【成績評価の方法】

出席と試験による。

【テキスト】

用いない。

【参考文献】

随時、授業中に紹介する。

【備考】

インテグレーション科目

一部講師の都合で変更になることがあるが、学期初めに連絡する

さ
行

科 目 名			
社会福祉発達史 [2]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	木 村 和 世

【講義概要・学習目標】

明治期の恤救規則から現代の福祉までを対象とする。福祉史を身近なものとして把握するために南河内地方の農村や新聞記者の目を通した大阪の町を対象に、その変遷を見ていく。福祉史は単に過去の出来事を勉強するだけでなく、現在を見る眼を養うものであることを、講義を通して学んでほしい。

【授業計画】

1. 明治期の恤救規則と南河内の村々
2. 社会問題の発生と社会事業
3. 大正期一都市リベラリズムの光と影
4. 大阪毎日新聞記者 村嶋歸之と大阪
5. 社会事業から厚生事業へ
6. 1945年・大阪
7. 戦後の社会福祉政策の展開

【成績評価の方法】

出席を重視する
テスト、レポートについては講義時に通知する

【テキスト】

- ・『路地裏の近代史』木村和世（昭和堂）予定
- ・プリントを必要に応じて配布する

【参考文献】

『都市の近代・大阪の20世紀』芝村篤樹/『大正/大阪/スラム』杉原薫・玉井金五編/『防貧の創造』玉井金五/『昭和20年 1945年』藤原彰・栗屋憲太郎・吉田裕 編

科 目 名			
社会福祉法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	瀧 澤 仁 唱

【講義概要・学習目標】

1. 社会福祉の法体系及び関係法の概要を理解させる。
2. 社会福祉の実施体制の概要を理解させる。
3. 社会福祉の財政の構造及び社会福祉における費用徴収制度を理解させる。
4. 我が国における公私の役割を理解させる。

【授業計画】

1. 我が国における社会福祉行政の歴史的展開
2. 社会福祉法制の概要
 - 1) 福祉六法を中軸とする社会福祉法制の概要
 - 2) 社会福祉法を中軸とする社会福祉の法的基盤(民生委員法、日本赤十字社法、社会福祉・医療事業団法を含む)
 - 3) 関連法の概要(介護保険法、売春防止法、災害救助法、戦傷病者特別援護法等)
 - 4) 社会福祉計画(老人保健福祉計画、障害者計画、児童健全育成計画、地域福祉計画)
 - 5) 地方自治体の独自事業
3. 社会福祉の実施体制(国と地方の役割、行政機関と関係機関、措置制度)
4. 社会福祉の財政と費用負担
5. 社会福祉における公私の役割分担と連携のあり方

【成績評価の方法】

論述式筆記試験

【テキスト】

法改正が多く、適当な教科書が間にあわないので、別途指示します。

【参考文献】

より詳しく調べたい方は、社会福祉小六法(2006年版)又は『社会福祉六法 2006(平成18)年版』(新日本法規)
必要に応じて一部条文はコピーしてわたしますので、特別に専門的な学習のために必要な方以外は購入する必要はありません。

科 目 名			
社会保障論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	赤 井 朱 美

【講義概要・学習目標】

- 1 現代社会における社会保障の理念と意義について理解させる。
- 2 社会保障制度の体系について理解させる。
- 3 社会保障の各制度の概要について理解させる。
- 4 日本の年金保険について熟知させる。
- 5 日本の医療保険について熟知させる。
- 6 日本の民間保険の概要と公的施策との関係について理解させる。
- 7 社会保障の実施体制及び専門職について理解させる。

【授業計画】

- 1 現代社会と社会保障
 - 1) 社会保障理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 社会保障制度の体系
- 3 社会保障を構成する各制度の目的、対象、給付内容及び財源の概要
 - 1) 年金保険
 - 2) 医療保険
 - 3) 介護保険
 - 4) 労災保険
 - 5) 失業保険（雇用保険）
 - 6) 家族手当（児童手当）
 - 7) 公的扶助
 - 8) その他関連制度
- 4 日本の年金保険制度とその具体的内容
 - 1) 国民年金
 - 2) 厚生年金
 - 3) 各種共済組合の年金
- 5 日本の医療保険制度とその具体的内容
 - 1) 国民健康保険
 - 2) 健康保険
 - 3) 各種共済組合の医療保険
- 6 公的施策と民間保険
 - 1) 公的施策との関係
 - 2) 現状
- 7 社会保障の実施体制及び専門職

【成績評価の方法】

論述式を中心とした試験による素点評価（定期末試験を予定しているが、前後期試験のいずれかを受験しなかった者は、単位認定できない。）。

【テキスト】

基本書として、有斐閣アルマ「はじめての社会保障」（第3版）を勧めるが、補完物として講義時にレジュメ等の資料を適宜配布の予定である。

【参考文献】

「社会保障年鑑2005年版」ほか、講義の中で適宜紹介する。

【備考】

<02～05生>
共通自由科目として、SW生対象外
SW生は学科自由科目

科 目 名			
宗教社会学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	清 水 夏 樹

【講義概要・学習目標】

日本および西洋の宗教史をたどりながら、近・現代社会に占めるそのウェイトと機能を考える。明治以降の新宗教活動の一端をみ、戦後社会の病理もしくは“影の部分”を理解する手がかりとしたい。宗教にまつわる問題は、ある意味で社会学の窮極の課題（テーマ）とさえいえる面をもつ。E・デュルケイム、M・ウェーバー等先人の業績をふまえ、また文化人類学、民俗学上の知識・事例研究にも触れながら、現実の「社会」と生身の「人間」との有機的な結びつきを問い直す姿勢を大切に講義をすすめたい。

【授業計画】

前期

聖と俗、未開社会の宗教儀礼、祭りの構造と習俗基盤、修験道等伝統儀礼にみるシンボルの動態、宗教の世俗化とその逆現象、同じくその脱俗化（再聖化）とdemonization、カリスマの発祥と変容。

後期

神仏習合にみる日本固有信仰の特徴、その歴史的基盤、日本近代化の舞台裏を担うものとしての新宗教々団、経済発展と宗教倫理との逆説的な関係、現代社会のひずみと宗教ブーム、同じくsubculturalな動向にみる価値フレームとの関連。

【参考文献】

授業中随時に指示する

科 目 名			
生涯学習概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	尾 谷 雅 彦
02	秋学期	2単位	

【講義概要・学習目標】

現在、生涯学習という言葉が氾濫している。しかし、その定義は使う人の立場によって変化する。つまり、それほど内容が豊かなものである。本講義では、生涯学習の考え方そして生涯学習を支援する重要な要素である社会教育について講義する。特に実践面としての社会教育行政の基本事項とその実態、問題点をとりあげる。

【授業計画】

1. 生涯学習とは
2. 生涯学習と社会教育
3. 生涯学習、社会教育の歴史的背景
4. 生涯学習、社会教育の施策
5. 社会教育の意義と社会教育行政
6. 社会教育の内容と方法
7. 社会教育の指導者①
8. 社会教育の指導者②
9. 社会教育の施設①
10. 社会教育の施設②
11. 学習情報の提供
12. 昨今の社会教育行政の課題
13. 昨今の社会教育行政の課題①
14. 昨今の社会教育行政の課題②
15. 試験

【成績評価の方法】

出席を重視。100点満点で配点は2/3以上の出席で50点、試験50点。但し5回以上の欠席は0点とする。

【テキスト】

特になし、講義中に適時プリントを配布する。

【参考文献】

『生涯学習概論』山本恒夫編著 東京書籍
『図書館員のための生涯学習概論』朝比奈大作 日本図書館協会

科 目 名			
障害者福祉論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	黒 田 隆 之

【講義概要・学習目標】

本講義の目標は、学生の皆さんに、障害のある人が地域社会の中で生活することは当たり前のことであるということを理解してもらうことと、そのためにはどのような支援が必要であるのかということを考えてもらうことである。教科書の内容を学習するだけでなく、ビデオ教材を用いたり、障害のある人の話を聞いたりするなど、障害のある人がおかれている今の状況を理解できるような講義を行う。

【授業計画】

- ・ 障害者福祉の考え方
- ・ 障害の概念と障害者の実態
- ・ 障害者福祉の史的展開
- ・ 障害者施策の体系
- ・ 障害者福祉のサービス体系
- ・ 障害者福祉の関連分野
- ・ 障害者運動と当事者参加
- ・ 障害者に対する相談援助活動

【成績評価の方法】

出席、レポート、テスト等により総合的に評価する。

【テキスト】

『社会福祉士養成講座 (3) 障害者福祉論』中央法規出版

【参考文献】

授業時に提示する

科 目 名			
商業科教育法 [4]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	松 原 勇

【講義概要・学習目標】

経営革新時代の商業科教員を目指す学生を対象にした「高等学校教員（1種）免許取得」のための必修科目である。グローバル化が著しい世界経済のなかでの商業教育は、キャリア教育・企業家教育の視点に立って国際化・情報化に対応できる人材の育成が急務である。近年、特に優れた職業倫理を身につけ、「心の充実」「思考力の強化」「知識・技術の拡大発展」等の習得が不可欠である。学習指導要領を踏まえ「豊かな人間性」「一人一人の個性」等を伸ばす能力を十分に生かすことを大きな目標にしている。将来教育に携わる者は、常に教育理念を念頭におきながら、商業教育の本質に立脚した自覚と責任をもって臨まなくてはならない。本講は、教育者としての人間力を磨くと共に世界経済の現状と将来の商業教育を展望しつつ、教育上の本筋を究明する。特に年間指導計画、毎時の学習指導案の作成、学習指導法、模擬授業などの方法論を重点的に網羅して実践指導する。

【授業計画】

- 1 商業教育の意義と目的
- 2 商業教育の変遷
- 3 現在の高等学校の商業教育
- 4 商業教育における国際化と情報化
- 5 教育課程の編成
- 6 学習指導法（模擬授業の展開）
- 7 学習指導計画と教育評価
- 8 教員の資質能力と研修制度
- 9 職業資格制度と検定試験制度
- 10 今後の商業教育の展望等

【成績評価の方法】

主として、出席を厳しく重視して評価する。なお、模擬授業の実践面の評価、期末試験等も勘案のうえ、総合評価とする。

【テキスト】

松原勇（編者）『商業科教育法』（ぎょうせい）

【参考文献】

『高等学校学習指導要領解説（商業編）』

科 目 名			
商業簿記			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	全 在 紋
02	通期	4単位	全 在 紋
03	通期	4単位	中 村 恒 彦
04	通期	4単位	中 村 恒 彦

【講義概要・学習目標】

■学習目標 平成18年度日商簿記検定試験3級合格
（本講義では、日本商工会議所簿記検定3級を取得することを目的とします）

■講義概要 今日の経済社会の発展は、簿記の利用なくしては不可能であったと断言しても過言ではありません。この意味で、簿記はたんに会計学のみならず、経営学、経済学、その他の基礎としても必要不可欠な学習科目の一つです。

商業簿記3級は、個人商店を前提として複式簿記による記帳（仕訳・勘定記入）の基礎および簿記一巡の処理の流れを学習していきます。期中処理では、商品売買に係る小切手、手形の取扱いおよびその他の記帳処理が重要な学習内容であり、決算においては、商品売買、受取手形・売掛金、固定資産の決算整理が重要項目となります。また、決算整理後の報告書（損益計算書、貸借対照表）の作成も重要な学習内容です。

【授業計画】

【講義計画】

- 第113回 日商簿記検定試験3級対策：4-6月
第114回 日商簿記検定試験3級対策：6-11月
第115回 日商簿記検定試験3級対策：11-2月

【講義内容】

- ①簿記の目的・取引・仕訳
- ②勘定口座への記入方法・試算表・商品売買の記帳方法・引取運賃及び発送費の記帳方法・手付金の記帳方法
- ③現金及び預金の記帳方法・手形の記帳方法（決済まで）
- ④手形の記帳方法（裏書譲渡から）・その他の勘定の記帳方法（有価証券・債権債務・収益・費用）
- ⑤その他の勘定の記帳方法（訂正仕訳）・主要簿及び補助簿（小口現金出納帳まで）
- ⑥主要簿及び補助簿（受取手形記入帳から）・伝票
- ⑦決算・決算整理（売上原価の計算）・英米式決算法
- ⑧精算表・その他の決算整理（貸倒れ・減価償却）
- ⑨その他の決算整理（有形固定資産の売却・繰延べ・見越し・消耗品費と消耗品）
- ⑩その他の決算整理（現金過不足・現金・売買目的有価証券・引出金）
- ⑪直前対策総まとめ講義（予定）
- ⑫直前対策Ⅰ
- ⑬直前対策Ⅱ
- ⑭直前対策Ⅲ
- ⑮直前対策Ⅳ
- ⑯公開模擬試験
- ⑰検定問題の解説

【成績評価の方法】

単位修得条件：日商簿記検定試験3級合格（合格点70点）
日本商工会議所の簿記検定は、年三回（6月・11月・2月）に実施されています。

【テキスト】

大原簿記学校オリジナル教材

- ①ALFA3級商業簿記テキスト
- ②ALFA3級商業簿記ドリル
- ③ALFA3級商業簿記アンサー

※第一回目から講義をおこないますので、必ずテキストを生協にて購入して受講してください。

【参考文献】

必要があれば、適宜指示します。

【備考】

06B生対象

科 目 名			
商業簿記			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	春学期集中	4単位	河 合 隆 治
06	春学期集中	4単位	金 光 明 雄
07	春学期集中	4単位	河 合 隆 治
08	春学期集中	4単位	金 光 明 雄

【講義概要・学習目標】

簿記は、企業の財務状態や経営状況を知る上で不可欠な知識であり、会計学を理解するための基礎に相当します。例えば、企業が倒産するかどうかやどれほどの借金を抱えているかについては財務諸表と呼ばれる書類に記載されていますが、これは簿記の知識がないと正確に読み取ることができません。

この講義では、ほとんどの企業で用いられている複式簿記について、その基本構造を理解し、記帳技術を習得することを目標とします。ここで複式簿記とは、企業が行う商品売買などの取引を二面的に把握・記録するための体系的な技術を指します。

具体的には、企業活動に伴う取引の記帳からはじまり財務諸表の作成にいたるまでを、(1) 複式簿記の基礎概念、(2) 諸取引の会計処理、(3) 決算と財務諸表、の順に講義を進めていきます。また、講義の理解を深めるために、計算演習を多く取り入れる予定です。

この講義を終えることによって、日商簿記検定3級程度の簿記の知識を得ることができ、財務諸表論、会計学原理、株式会社会計、原価計算システム、管理会計論、税務会計、監査論、経営分析といった科目を受けるための基礎が形成されます。

【授業計画】

1. 複式簿記の基礎
 - (1) 簿記の基礎概念
 - (2) 資産・負債・資本と貸借対照表
 - (3) 収益・費用と損益計算書
 - (4) 簿記上の取引
 - (5) 仕訳と勘定記入
 - (6) 仕訳帳と総勘定元帳
 - (7) 試算表の作成 (その1)
 - (8) 元帳の締切りと財務諸表の作成
 - (9) 精算表の作成 (その1)
2. 取引の処理
 - (10) 現金と預金
 - (11) 商品売買
 - (12) 売掛金・買掛金
 - (13) その他の債権・債務
 - (14) 手形 (その1)
 - (15) 手形 (その2)
 - (16) 有価証券
 - (17) 固定資産の取得・売却と減価償却
 - (18) 資本金
 - (19) 収益と費用の見越し・繰延べ
 - (20) 試算表の作成 (その2)
 - (21) 決算整理手続
 - (22) 精算表の作成 (その2)

【成績評価の方法】

期末試験で評価します。

【テキスト】

加古宜士・渡部裕豆 (編著) 『新検定 簿記ワークブック 3級 商業簿記』中央経済社。

その他、適宜レジュメを配布します。

【参考文献】

中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋 (共著) 『現代簿記論』中央経済社、1992年。

その他の参考文献については、必要に応じて講義の中で提示します。

科 目 名			
証券論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	松 尾 順 介

【講義概要・学習目標】

近年証券市場は急速に身近なものとなっている。皆さんが上場企業に就職した場合、その会社は日々株式市場と直面し、敵対的買収に会うかもしれない。大企業だけでなくベンチャー起業家にとっても、証券市場は樹木の根のような不可欠な要素 (資金調達手段) である。また、従業員も社員持ち株制度やストックオプション制度で、株式を持つことが多くなった。さらに、インターネット取引は、一般の人々の株式投資を身近なものにした。他方、フィナンシャルプランナーや税理士・会計士を目指す学生にとっても、証券市場の知識は必要不可欠である。本講義は、株式市場を中心に、証券市場の基本的な制度やルール、さらにその実態の理解を目的とする。証券市場を「ずるがしこく儲ける所」と理解している人も多いが、実は「ルールのかたまり」であり、ルールを順守することで成り立っていることを理解してほしいと思っている。講義内容は、株式や債券の基本からデリバティブまでを対象として講義する予定である。

【授業計画】

1. 株式の基本的知識
2. 債券の基本的知識
3. 株式発行市場
4. 取引所における取引システム
5. 店頭市場における取引システム
6. 新しい取引システム
7. 株価と投資尺度
8. デリバティブ取引
9. 証券化

【成績評価の方法】

期末テストで評価する。ただし、毎回の質問状のうちよい質問状は期末評価に加点する。また、課題提出にも加点する。なお、出席点は一切考慮しない。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

日本証券経済研究所編『詳説 日本の証券市場2004年版』日本証券経済研究所
証券広報センター編『証券市場2005』中央経済社
東京証券取引所編『入門 日本の証券市場』東洋経済新報社
川村雄介著『最初に読みたい株の教科書』朝日新聞社

【備考】

<02~05生>

共通自由科目として B生対象外

B生は学科教育科目

科 目 名

商法 I

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4単位	瀬 谷 ゆり子

【講義概要・学習目標】

商法のうち、経済社会における中心的な法主体としての会社、とりわけ株式会社に関する法規整の理解を目指す。

会社の設立、その構成と運営のルール、さらには解散に至るまでの基本的な法制度を一貫して学修することは、経済社会に身を置くものにとって有益であり、また必要であると考え。とはいえ、経済社会の動向に影響されることの多いこの分野は、現在に至るまで頻繁に法改正が行われており、2005年に商法典から分離した形で新会社法が成立した(2006年5月施行予定)。授業では、この新法の理解を目標にすることになるが、今までの法改正の背景、意義及び評価を行いつつ、法律上あるべき会社としての姿に迫ることをも企図している。さらに、必要に応じて証券取引法の検討も加えていく。

民法は履修済み(あるいは履修中)であることが望ましい。

【授業計画】

概ね、次に掲げる講義計画に沿って進めるが、その時々話題となっている具体的な事例や会社関係の事件を適宜取り入れて、できるだけ新しい素材を使った授業をしたい。

1. 会社とは
2. 株式会社の設立手続、機関設計
3. 株式、新株予約権
4. 株式取引の仕組みと法規制
5. 株式会社の組織と運営
6. 株式会社の計算
7. 会社の解散及び清算
8. 企業再編
合併、事業譲渡、会社分割、株式交換、株式移転
9. 持分会社

【成績評価の方法】

試験の方法による。なお、授業中、2～3回確認のためのクイズを行い、これも評価に加算する。

【テキスト】

毎回必ず、最新版の六法を持参すること(出版社は問わないが、昨年度のものでも使えません)。テキストは開講時に指示します。

【参考文献】

授業時間中に適宜紹介する。

科 目 名

商法 I

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4単位	吉 見 研 次

【講義概要・学習目標】

この講義では、商法のうち会社法について講述する。会社法といえは会社のすべての法律問題を扱うものと誤解されがちだが、実際には会社法の守備範囲は限定的なものである。具体的には授業計画に記した通りであり、学生諸君にとってはいかにも疎遠な内容であろう。「会社勤め」をする人にとっても、ほとんど役に立ちそうにもない話ばかりである。さらに、他の法律と比較しても煩瑣で技術的な規定が極めて多いのが、会社法の特徴といえる。こうした会社法の特徴を認識した上で受講するようにしてもらいたい。

毎授業時に『六法』を携帯すること。私語は厳禁。その他受講時の留意事項について、最初の授業時に説明する。

【授業計画】

- I 会社法総論 1) 会社の法的性質 2) 会社の種類 3) 法人成り
- II 株式会社法 1) 設立〔設立手続、定款、仮払込等〕 2) 株式〔株主の権利義務、株式譲渡、自己株式〕 3) 株主総会〔総会の権限・運営、総会の決議〕 4) 業務執行・監査機関〔取締役、取締役・会社の関係、取締役会、会計参与・監査役・会計監査人、委員会設置会社、役員の実任〕 5) 資金調達等〔株式の発行、新株予約権、社債〕 6) 計算〔計算書類、資本・準備金、配当〕 7) 基礎的変更〔合併・営業譲渡、分割等〕
- III 持分会社法

【成績評価の方法】

正誤文選択等による短答式の学期末テストを予定している。

【テキスト】

菅野和夫ほか編『ポケット六法 平成19年版』(有斐閣)

*他社の『六法』でも可。

*平成19年版が出版される10月中旬までに関しては、最初の授業時に指示する。

【参考文献】

授業時間中に適宜紹介する。

科 目 名			
商法Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	牛 丸 與志夫

【講義概要・学習目標】

わが国において、手形および小切手が、企業の支払い手段として重要な役割を果たしている。そこで、講義では、手形および小切手の法規制の基本的な知識と応用力の取得を目標とする。

【授業計画】

手形のうち約束手形につき、その振出、裏書、支払いの順番で講義を行う。その後、為替手形の特殊性、小切手の特殊性について、講義を行う。講義では、練習問題を解きながら、行う。

【成績評価の方法】

期末試験で評価する。

【テキスト】

- ①坂井隆一著『手形法・小切手法要論』（法律文化社発行）
 ②青山善充・菅野和夫編『ポケット六法（平成18年度版）』（有斐閣発行）

科 目 名			
商法Ⅲ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	瀬 谷 ゆり子

【講義概要・学習目標】

商法総則及び商行為法を対象とする。商法総則は主に個人企業組織に関する通則的な規定として、また商行為法は法人を含む企業取引に関する通則的な規定として位置づけられる。基幹科目としての民法を学修したものが、この分野の学修をすることで、企業に特有のルールの必要性を認識し、かつその内容を理解することを目的とするものである。

したがって、民法に関し総則の部分は履修済みであることが望ましく、契約の部分を履修済み（履修中）であれば、とりわけ商行為法の理解に有益です。

【授業計画】

概ね、以下のような順で行う。

1. 商法とは 商法の特徴
2. 商法の適用範囲 商人と商行為
3. 商号
4. 商業登記
5. 組織と人 商業使用人
6. 商業帳簿
7. 民法と商法の交錯
 商事売買に関する法制度
 交互計算
 消費者取引等
8. 様々な営業形態
9. 各種保険
10. 普通取引約款
11. 金融取引取引
12. 資本市場取引

【成績評価の方法】

試験の方法による。なお、授業中、2～3回確認のためのクイズを行い、これも評価に加算する。

【テキスト】

最新の六法（必ず毎回持参すること）。
 テキストは未定。開講時までには知らせません。

【参考文献】

授業時間中に適宜紹介する。

科 目 名			
情報科教育法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	藤 間 真

【講義概要・学習目標】

ますます進展する情報化社会にあつて、高等学校における普通教科・専門教科「情報」においては、

- ①情報活用の実践力
- ②科学的な理解
- ③情報社会に参画する態度

を系統的・体系的に習得・育成させることが求められている。

この授業においては、その教育目標を達成するために、教科構造、ねらい、内容、指導法について系統的・体系的に理解するとともに、授業実施に当たって必要とされる指導計画、教材研究、授業設計、実施、評価、改善等に関する理解・能力を体験的に習得する。授業の形態は、講義、演習、模擬授業を組み合わせで展開する。

なお、受講生への連絡は大学のメールを用いるので最低限の操作はできるようになっていることを前提とする。

【授業計画】

- ・ IT革命の現状と展望
- ・ 初等中等教育における「情報」教育の役割と課題
- ・ 「情報」の教科構造
- ・ 学習指導要領における普通教科「情報」の目標と内容
- ・ 学習指導要領における専門教科「情報」の目標と内容
- ・ 「情報」の授業の実際
- ・ 年間指導計画の作成
- ・ 単元指導計画の作成と内容の取り扱い
- ・ 教材研究の実際
- ・ 学習指導案の作成
- ・ 模擬授業及び評価と改善
- ・ まとめ

【成績評価の方法】

講義への参加、課題への取り組み、期末課題、模擬講義等を総合して評価する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説 情報編 開隆堂出版

【参考文献】

- 情報科教育法 岡本敏雄 丸善
- 情報科教育法 大岩元 オーム社
- 情報科教育法 河村一樹 彰国社
- 情報科教育法 本村猛能 学術図書出版

その他講義の進行状況に応じて指示する。

科 目 名			
情報化組織論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	牧 野 丹奈子

【講義概要・学習目標】

情報化社会の今日、企業には新しい知識を次々と生み続けることが求められている。しかし、画期的な知識を生み続けることは易しいことではない。

では、どのような組織ならば、新しい画期的な知識を次々と生み出せるのか。どのような組織構造や職場が望ましいのか。

このような問題に対して、企業組織をひとつの“システム”とみなしながら取り組むことが、本講義の学習目標である。

つまりこの講義では、“情報化社会では、どのような組織が成功するのか”を、システム論や事例研究を用いながら学習することになる。

【授業計画】

1. 情報化社会で企業に必要な能力とは何か(自己革新する経営)
2. 情報化社会で個人に必要な能力とは何か(個人自律化)
3. 組織をどのようにとらえるか(組織の二重構造)
4. どのような職場がよい職場か(「自律性」と「関係性」)
5. 情報と物質とのちがい

【成績評価の方法】

試験とレポートなどの総合評価によっておこなう。

【テキスト】

『経営の自己組織化論—装置と行為空間』牧野丹奈子 日本評論社

【参考文献】

その都度、参考文献を紹介する。

さ
行

科 目 名			
情報機器論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	藤 間 真

【講義概要・学習目標】

本講の目的は図書館における情報機器に関する基本的な知識の修得である。単なる現状追認に終わらず、司書としての人生に役立つよう本質的な理解を目指す。そのために、単純な一方通行の講義ではなく、主体的に自分の頭で考えることを要求する講義運営を目指す。

具体的な計画は授業計画欄の通りであるが、コンピュータの世界の変化と講義の進展の状態に応じて変更することもありうる。また、図書館やICTに関する基礎的な知識は保持していると言う前提で講義を行う。

なお、講義の第二回目に最初の課題提出を要求する。詳細は教務課の掲示板に掲示するので見落とさないこと。

なお、受講生への連絡は大学のメールを用いるので最低限の操作はできるようになっていることを前提とする。

【授業計画】

- ・本講義で要求するレポートのレベルについて
- ・情報を機械で扱うとは
- ・デジタルとアナログ
- ・図書館学の五法則と情報機器
- ・図書館で使われる情報機器
- ・情報処理システムの基礎知識
- ・パソコンの基礎知識
- ・視聴覚機器とプレゼンテーション
- ・プロと付き合いプロとして
- ・情報化時代の暗号化技術
- ・電子資料と保存

【成績評価の方法】

学期末レポートを主に、平常成績を加味し総合的に判断する。

【参考文献】

進行状況に応じて指示する。
尚、講義に必帯とはしないが、
志保田務・平井尊士 編著 図書館と情報機器・特論：情報メディアの活用 第一法規に目を通すことは要求する。

科 目 名			
情報検索演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	1単位	都 築 泉

【講義概要・学習目標】

図書館の利用者に対するサービスとして、オンライン・オンディスクのデータベースの提供は、昨今必須である。データベースを利用して種々の情報を引き出す業務を担当する専門家はサーチャー（インフォメーション・スペシャリスト）と呼ばれ、大学図書館・公共図書館・企業内図書館などで活躍している。一方、図書館の役割としては、情報管理者としての立場から利用者が利用しやすい環境を整備することが求められている。

ここでは、1級と2級の上級サーチャーの前段階としての情報検索基礎能力試験（(社)情報科学技術協会が行う）を目標において、実践を交えながら学習する。

当講義の受講には、第1回の講義までに次の条件を満たしておくこと。

1. E-mailアドレスを取得しておくこと（学内LANのそれでよい）。
2. パソコンキーボードの操作・入力ができること。

【授業計画】

1. ガイダンス 情報検索基礎能力試験の概要
2. データベース概論、情報の検索と利用に関する知識
3. 情報メディアの種類と特性、情報管理、情報検索・データベースの歴史
4. 情報検索の基本1-主題分析、キーワード、一次情報と二次情報
5. 情報検索の基本2-検索式、コマンド、コマンド不要の検索方法
6. 情報検索の実際1-新聞記事、雑誌記事、企業情報
7. 情報検索の実際2-科学技術情報
8. 情報検索の実際3-特許・商標
9. 情報検索の実際4-人物情報、生活情報、趣味、その他
10. インターネットと商用データベース
11. 海外のオンライン情報検索システム
12. 情報の活用、情報検索担当者の企業での役割
13. 調査結果のまとめ方とプレゼンテーション
14. まとめと最終試験

【成績評価の方法】

テスト 50%
平常点（レポートを含む） 50%

【テキスト】

情報検索の基礎知識 （情報科学技術協会）2,000円

【参考文献】

1. 「情報活用術：情報検索 情報処理の楽々実行」（学芸図書）2300円 編著者：志保田 務・平井尊士・中崎修一
2. 「最新オンライン情報源活用法」（日外アソシエーツ）2000円

科 目 名			
情報検索演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	1単位	志保田 務

【講義概要・学習目標】

現代社会は、情報化、コンピュータ化のただ中にある。オンライン、オンデスクのデータベースは図書館にとって常識化している。データベースに関する知識と、その扱いについてはここで学ぶ。さらに検索の専門家サーチャーへの登竜門となる情報検索機器能力試験をも目指す。

各分野の専門家によるインテグレーション授業として、INFOSTA（情報科学技術協会）の中心メンバーの指導を受ける。第2回目以降の授業では、情報センターのコンピュータ演習室を使用する。

この授業の受講を始めるには、第1回講義までに、次の条件を満たしておくこと

- 1 パソコンキーボードの操作、入力ができる。
- 2 E-mailの受発信が出来る。

【授業計画】

- 1 情報検索演習概説
- 2 情報処理基本技術
- 3 検索式（コマンド）
- 4 一次資料と二次資料
- 5 図書情報、雑誌・新聞記事の検索
- 6 企業、人物情報とその検索 1（日本のDB）
- 7 企業、人物情報とその検索 2（外国のDB）
- 8 医学や苦学情報とその検索
- 9 特許情報とその検索 1
- 10 同 1
- 11 生活情報とその検索
- 12 情報検索と英語
- 13 サーチャー試験案内 1
- 14 同 2
- 15 まとめ

【成績評価の方法】

テスト 50%
課題 40%
出席 10%

【テキスト】

情報検索の基礎知識/情報科学技術協会 2003 2000

【参考文献】

図書館の指定図書コーナーを見てください。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
情報検索演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	秋学期	1単位	中 崎 修 一

【講義概要・学習目標】

現在、多様化した情報資源を活用する能力は必須となっている。特にネットワークを利用することで、場所を移動することなく、世界中の様々な情報源から必要な情報を瞬時に収集できるようになった。

本演習では、情報の読み方や多種多様な情報の検索を通じて、情報源の調査、情報収集の手法と多様化した情報源へのアクセス法の習得を図ると同時に、実践的な技術の習得を図ることを目的とする。

毎回の課題提出を電子メールで行うため、基本的なパソコンおよび電子メールの利用法を習得していることを前提とする。

【授業計画】

1. 情報化社会と情報メディア
2. 情報検索概説
3. 情報検索の論理
4. インターネットと情報検索
5. 図書情報検索
6. 雑誌情報検索
7. 新聞情報検索
8. 学術情報検索
9. 各種情報検索
10. 情報検索技術解説
11. 電子図書館、著作権
12. 情報検索の応用（1）
13. 情報検索の応用（2）
14. まとめ

【成績評価の方法】

課題提出、筆記試験、出席から総合的に判断する。

【テキスト】

指定無し（Webにて資料提示）

【参考文献】

志保田務・平井尊士・中崎修一編著『情報活用術：情報検索・情報処理の楽々実行』（学芸図書）ISBN 4-7616-0342-9
志保田務・平井尊士編著『情報機器論・特論：メディアの活用12章』（第一法規）
『情報検索の基礎』第2版（情報科学技術協会）

さ
行

科 目 名			
情報検索論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	志保田 務

【講義概要・学習目標】

情報検索について、文系、社会科学系からのアプローチをする。「情報検索」がどういうものを指し、どういったところで活かされているか、今日的にどのようなかちを有するかを論じる。その上で、技術的な把握、たとえば、各種検索エンジン、ゲートウェー、ポータルサイトなどの評価を行う。技術実習は、人間的な問題から、宿題にすることが多いが、これへの応答を学内ホームページ Nile 2 lesson tshihota 及びメールで行う。なお、講義計画の「5」～「14」は<講義>-<演習の>の2本立てである。

【授業計画】

各、2回程度

- 1 情報検索の意味的理解：定義、範囲、用語など
- 2 情報検索の歴史面の理解：コンピュータ以前の情報検索
- 3 現代社会と情報検索：コンピュータピア、生活と情報の検索
- 4 実業、経営における情報検索の位相
- 5 情報検索の空間（講義1、演習1、以下「14」まで同様）
- 6 情報と著作権問題
- 7 検索ルート：検索エンジン、有料・無料サイトなど
- 8 検索機器：オンライン、オンデスク、モバイル、携帯電話など
- 9 検索内容パターンと、検索方法パターン
- 10 ファクトリトリバルとドキュメントリトリバル
- 11 ファクトデータベースとレファレンスデータベース
- 12 書誌情報
- 13 図書館情報
- 14 索引、索引作り
- 15 テスト

【成績評価の方法】

テスト 70%
レポート、ノート提出 (web) 30%

【テキスト】

三輪真木子『情報検索のスキル：未知の問題をどう解くか』中央公論新社、2003。— (中公新書；1714) 660

【参考文献】

ほか
図書館の指定図書コーナーを見てください。

【備考】

<02～06生>
共通自由科目として、B生対象外
B生は学科教育科目

科 目 名			
情報サービス演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	1単位	垣 口 弥生子

【講義概要・学習目標】

図書館では、人々のさまざまな情報ニーズに応えるべく、図書館の情報資源を活用して情報サービスを提供している。この科目では、「情報サービス概説」（講義科目）で得られる知識を基礎としつつ、図書館のレファレンスサービスの実際について学ぶ。演習方式の授業で、具体的な質問（情報ニーズ）に対し、参考文献（レファレンス・ブック）その他の情報源を使って回答（情報）を提供する、というレファレンスサービスの過程を体験して理解を深める。インターネットに代表されるデジタル情報源についても活用できることをめざす。

レファレンス・ブックおよびインターネットその他の情報源についての知識を広げることは、求める情報を的確に探し、回答に到達する力を身につけることにつながり、将来にわたって学習および生活に大いに役立つことになるだろう。

【授業計画】

1. レファレンスの情報源（種類／評価／ガイド）
2. 言語・文字の情報源（国語辞書／漢和辞書／難読語辞書／対訳辞書／その他の辞書／用語索引／詩歌索引）
3. 事物・事象の情報源（百科事典／専門事典／便覧類／図鑑）
4. 歴史・日時の情報源（歴史事典／歴史便覧／事物起源・年中行事事典／年表／年鑑／統計資料）
5. 地理・地名の情報源
6. 人物・団体の情報源（人名事典／名鑑／人物文献索引／難読姓名辞書／系譜・家系事典／団体・機関名鑑）
7. 図書・叢書の情報源（一般書誌／解題書誌／個人書誌／叢書・合集の索引／蔵書目録／総合目録）
8. 新聞・雑誌の情報源（逐次刊行物リスト／新聞記事索引／雑誌記事索引／抄録誌）

【成績評価の方法】

演習課題の提出により主たる評価を行うが、出席状況や授業中の発表状況を加え、総合的に評価する。

【テキスト】

長澤雅男・石黒佑子著「新版 情報源としてのレファレンス・ブックス」（日本図書館協会 2004）

【参考文献】

高敏裕樹著「デジタル情報源の検索」（京都大学図書館情報学研究會 2005）
その他、講義の中で紹介する

科 目 名			
情報サービス概説			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	西 田 文 男

【講義概要・学習目標】

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等について総合的に解説する。

【授業計画】

1. 情報サービス一般の広がりとは図書館が行う情報サービスの位置づけ
2. 図書館における情報サービスの意義と種類(レファレンスサービス、レフェラルサービス、カレントアウェアネスサービス等)
3. 情報及び情報検索行動についての基本的理解
4. レファレンスプロセス(レファレンス質問の受付から回答まで、マニュアル検索とコンピュータ検索を含む)
5. 情報検索サービスの方法、プロセス・評価
6. 主要な参考図書、データベースの解説と評価
7. 参考図書及びその他の情報源の組織(二次資料の作成にも触れる)
8. 各種情報源の特質と利用法

【成績評価の方法】

定期試験の成績を主に、出席状況も加味して評価する。

【テキスト】

西田文男監修、志保田務・平井尊士編著「情報サービス：概説とレファレンスサービス演習」学芸図書

【参考文献】

その都度指示する。

科 目 名			
情報システム論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	芦 田 昌 也

【講義概要・学習目標】

社会の基盤施設や経済活動における必須の道具から、個人での情報活用のための文房具に至るまで、情報システムは私たちの生活に深く入り込んでいる。この講義では、こうした情報システムを開発する側と利用する側の両方の観点から考察していきたい。まず、前半部では、情報システムの一般的基礎知識に関して講義する。可能な限り最先端の情報技術の動向についても紹介していきたい。後半部では、データベースシステムに焦点をあてながら、情報システムの効率的な設計と管理運用について講義する。

【授業計画】

1. システムとは
2. 情報システムとは
3. 情報システムの利用形態
4. 情報システムの実例
5. 情報システムの変遷
6. 情報システム技術
7. 情報システムの設計と管理
8. 情報システム技術の将来展望
9. データベースとは
10. データベースシステムの基本構成
11. データモデル
12. データベースの設計
13. 関係データベースとSQL
14. データベース管理システム
15. 分散型データベースと集中型データベース
16. 情報検索システムの実現と効率化
17. インターネットの情報収集方式
18. インターネットの情報検索方式

【成績評価の方法】

試験の成績により評価する。

【テキスト】

特になし。必要に応じて、資料を配布する。

【参考文献】

川合 慧 監修・駒谷昇一 編著「情報と社会」オーム社
川合 慧 監修・河村一樹 編著「情報とコンピューティング」オーム社

さ
行

科 目 名			
情報と職業			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	小 林 利 臣

【講義概要・学習目標】

教科「情報」を教えることを考えている人、および情報に関わる職業につくことを考えている人を対象に

情報システムとはなにか
 情報システムと情報化社会のかかわり
 企業活動におけるビジネスモデルとそれを支える情報システム
 情報関連分野における職業観（法律、資格、倫理なども含む）
 を理解してもらうことを目標とする。
 情報システムの進展によって、社会・ビジネスの「あり方・ありよう」は大きく変化している。変化する情報化社会で生きていくためには、変化の本質、今後どう変化していくかを理解できなければならない。

情報に関わる職業につき、仕事していくには、単に「情報に関する知識」を身に付けるだけでは不十分であり、「情報に関する考え方」を身に付ける必要がある。本講義では「考える」ことに付けたいと考える人向けに構成している。

【授業計画】

第1部（情報システムの進展による社会の変化）では、コンピュータ・情報システムの進展、およびインターネットの出現を背景に、「社会がどう変化し」、「情報に関わる職業の雇用状況がどう変化しつつあるのか」を学ぶ。

1. 情報システムとは
2. 情報システムの進展
3. 社会の変化
4. 雇用の変化

第2部（情報ビジネスと職業）では、さらに詳しく企業における情報システムの活用、およびビジネスモデルの変化を調べ、「情報に関わる職業にはどんな職種があるのか」、一般企業に就職した場合「情報システム利用者として情報とどういう関わりをするのか」を学ぶ。

5. 企業における情報システムの活用
6. 企業情報システムの新しい方向
7. 新しいビジネスモデルとビジネスモデルの研究
8. 情報関連の職業（新しい職種の出現、雇用形態の多様化、企業研究）

第3部（職業としての情報教育）では、教科「情報」を教えることを考えている人のために、教科「情報」の概要・授業計画を調べ、「教科「情報」教育者としての心構え」を学ぶ。

9. 教科「情報」の概要
10. 教育者としての心構え

第4部（情報化社会と個人）では、企業における会社組織と個人との関係、および情報化社会における法制度などを学び、「情報関連分野における職業観」を涵養する。

11. 企業における会社と組織と個人との関係
12. 情報化社会での生き甲斐
13. 法律と職業倫理
14. 就職活動と情報
15. これからの情報化社会

【成績評価の方法】

講義時の課題・レポート、および期末試験で、評価する。

【テキスト】

特になし。必要に応じて講義時に資料を配布する。

【参考文献】

- 近藤勲編著『情報と職業』丸善（2002）
 澁澤健太郎他著『情報教育のための基礎知識』NTT出版（2003）

科 目 名			
職業指導			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	松 原 勇

【講義概要・学習目標】

本講は、経営革新時代の商業科教員を目指す学生を対象にした「高等学校教員（1種）免許取得」のための必修科目である。

ビジネス教育は経済社会の変化に柔軟に対応できる能力の育成を図るものでなければならない。文部科学省のキャリア教育・企業家教育の視点に立って、国際化・情報化に対応できる人材の育成が求められる。本講では、その趣旨を踏まえ、自己教育力の育成を基礎・基本として、「魅力と価値のある人間形成」を目指し、「人間の生き方」と「職業観・勤労観」のより一層の職業能力の適性を伸長させ、職業指導の重点的な本筋を究明して講義する。併せて、「偉人達の名言・人生訓・仕事訓」「創造力・表現力」等の方法論の実践指導も図る。なお「共通自由科目履修者」にも、職業人としての使命感を持ち「優れた求心力のあるオンリーワンを目指す」厳しい姿勢の受講生（2、3年次生）がのぞましい。

【授業計画】

- 1 学校教育と職業指導
- 2 職業指導の必要性
- 3 就職活動への指針・実践
- 4 期待される新人社員像
- 5 学生生活と社会生活の相違
- 6 働くことの意義
- 7 ビジネスマンの心得
- 8 ビジネスの上手な進め方
- 9 コミュニケーションマナー
- 10 来客の対応と訪問の仕方
- 11 職場のよりよい人間関係
- 12 創造力・表現力の実践指導
- 13 トップビジネスマンを目指して

【成績評価の方法】

主として、出席を厳しく重視して評価する。なお、コミュニケーション能力の実践面、提出物、期末試験等も勘案のうえ、総合評価とする。

【テキスト】

松原勇（著）『経営革新時代の新ビジネスマンの基礎知識』（ぎょうせい）

科 目 名			
資料特論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	松 永 俊 男

【講義概要・学習目標】

行政資料、郷土資料、およびデジタル資料などについて、その特徴、収集、利用等を解説する。それぞれの専門の研究者によって講義が行われる。

【授業計画】

1. はじめに
2. 行政資料について
3. 情報公開制度について
4. 郷土資料について
5. デジタル資料について

【成績評価の方法】

出席状況、および講師それぞれの評価を総合して評価する。各講師の評価は、レポート、または授業後の小テストによって行われる。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
資料分類法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	志保田 務

【講義概要・学習目標】

本科目は、図書館法施行規則内科目「資料組織演習」のうち、主題検索の部分に集中して講義するものである。次のような概要と学習目標を有する。

<内容>

- 1) 文献世界の構造
- 2) 書誌コントロール
- 3) 図書館と書誌コントロール
- 4) 主題検索と書架分類法
- 5) 書誌分類法
- 6) 件名検索法
- 7) 主題検索とシソーラス

【授業計画】

- 1) 文献世界の構造
- 2) 書誌コントロール
- 3) 図書館と書誌コントロール
- 4) 主題検索と書架分類法
- 5) 日本十進分類法 1
- 6) 同上 2
- 7) 同上 3
- 8) 図書記号法
- 9) 別置法
- 10) 主題目録法
- 11) 書誌分類法
- 12) 件名検索法
- 13) 主題検索とシソーラス

【成績評価の方法】

テスト 70%

課題 20%

その他 10%

【テキスト】

志保田務『資料組織法 第5版』第一法規200 ￥2000

【参考文献】

図書館の指定図書コーナーを見てください。

【備考】

テキストは表の理解（説明）上に不可欠であるので、必ず入手、持参する必要がある。

さ
行

科 目 名			
資料分類法演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	1単位	吉 田 憲 一

【講義概要・学習目標】

後期の演習（分類法）では、資料の内容（主題）にかかわる検索のための主題組織化の技術、つまり主題索引法（分類法および件名法）について、今日、日本の大多数の図書館で使用されている「日本十進分類法」（NDC）および「基本件名標目表」（BSH）を用いて授業を進める。毎回、演習課題を課して、それへの解答作成を通じて、主題組織化の実際を学習してもらうことをねらいとする。

【授業計画】

1. 主題分析と主題把握
 - ①自然語による主題把握
 - ②統一名辞による主題把握
2. 分類法
 - ①分類作業
 - ②一般分類規程
 - ③特殊分類規程
 - ④各類演習
 - ⑤別置法・図書記号法
3. 件名法
 - ①件名作業
 - ②件名規程
 - ③件名演習

【成績評価の方法】

授業時に行う演習問題の解答レポートと、テストで総合評価する。演習科目なので、出席状況は重視する。

【テキスト】

吉田憲一編著 『資料組織演習』 日本図書館協会 （JLA図書館情報学テキストシリーズ10）

【参考文献】

日本図書館協会編刊 『日本十進分類法 新訂9版』
 日本図書館協会編刊 『基本件名標目表 第4版』

科 目 名			
資料目録法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	北 克 一

【講義概要・学習目標】

図書館は資料・情報を収集・整理・保存し、提供する社会的記憶装置である。図書館活動を基礎で支える資料・情報の組織化について、その意義の理解を進め目録法等の基礎知識を獲得すると共に、ネットワーク時代の資料・情報の最新状況の理解を目的とする。

【授業計画】

1. 書誌コントロールと資料組織化の目的・意義。歴史
2. 目録の機能、目録規則の構成原理、その適用
3. 典拠コントロールの目的と機能
4. 書誌レコードと典拠ファイル
5. 機械化、総合目録、ILLへの展開
6. 電子ジャーナル、電子図書館、メタデータ
7. まとめ

【成績評価の方法】

試験

【テキスト】

木原道夫[ほか]著 『資料組織法』（最新版）第一法規出版

【参考文献】

北克一著 『資料組織演習 改訂新版』 M. B. A
 国立国会図書館編 『書誌コントロールの課題』 日本図書館協会発行

【備考】

参考文献のURL等を指示することがあるので、検索エンジンの使い方をマスターしておくことが望ましい。

科 目 名			
資料目録法演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	1単位	北 克 一

【講義概要・学習目標】

資料組織概説（目録）で学習した目録規則、典拠コントロールなどを目録作成の演習を通して、目録に対する理解・経験を深めることを目的とする。

実際に書誌ユーティリティを使用し、書誌データベース構築を基礎演習する。コンピュータを使用する演習になるので、キーボード入力、かな漢字変換、マウス操作などを事前に学習しておくことが望ましい。

各人の演習データの保存用に、新規のフロッピー・ディスク（3.5インチ/2HD）を必ず持参のこと。（半年間の演習成果を記録します。）

【授業計画】

1. カード目録作成演習と記述、標目概念の理解
2. 書誌ユーティリティのシステムと参加図書館の役割
3. 書誌レコード、典拠レコードの検索演習
4. 和図書所蔵登録・流用入力・新規入力演習
5. 洋図書所蔵登録・流用入力・新規入力演習
6. 和雑誌所蔵登録演習・洋雑誌所蔵登録演習
7. 典拠コントロール演習
8. OPAC構築演習
9. まとめ

【成績評価の方法】

提出演習課題と理解度テストの総合で評価する。

【テキスト】

北克一著『資料組織演習 改訂新版2刷』M. B. A. 2003. 7

【参考文献】

根本彰著『文献世界の構造』勁草書房、1998.

【備考】

積み上げ学習なので、途中欠席をしないこと。

科 目 名			
心理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	通期	4単位	加 納 真 美

【講義概要・学習目標】

『心理学』を学びたいと考えている人に、心理学とはどのような学問なのかを理解してもらうことを目標とする。そのため、心理学全体の統合的な見取り図を示し、心理学がどのような日常の問題を、どのように明らかにしてきたかを考察していきたい。この講義では、特に進化の過程にある人間のしくみに関する解明と社会の中での人間という観点から、人間の発達と行動に関する解明を心がけたい。

【授業計画】

前期

Part. 1：私の中の世界

- 1 心と脳
- 2 知覚のプロセス
- 3 動機づけ
- 4 情動・感情
- 5 行動の獲得と変容（学習）
- 6 成長と変化（発達）

Part. 2：わたらしさ

- 7 パーソナリティー
- 8 自己意識

後期

- 9 心の構造
- 10 心の健康と適応

Part. 3：人と人との結びつき

- 11 対人認知
- 12 コミュニケーション
- 13 対人関係の発展

Part. 4：われわれの社会

- 14 集団と人間（状況の力）
- 15 住みやすい社会を築く（援助行動）
- 16 文化と心（日本人らしさ、比較文化）

【成績評価の方法】

期末の筆記試験、レポート、授業態度等を総合的に評価する。

【テキスト】

大坊郁夫編著、『わたし そして われわれ ミレニアムバージョン』、北大路書房、2004年

【参考文献】

- ・長谷川寿一・東條正城・丹野義彦著、『はじめて出会う心理学』有斐閣アルマ、
- ・ジョージ・バターワース他著 村井潤一監訳、『発達心理学の基本を学ぶ』、ミネルヴァ書房、1997年
- ・尾見康博・伊藤哲司編著、『心理学におけるフィールド研究の現場』、北大路書房、2001年
- ・菊池 聡・谷口高士・宮元博章編著、『不思議現象 なぜ信じるのか、こころの科学入門』、北大路書房 1995年

【備考】

私語厳禁、迷惑行為を行なった場合、退出をお願いします。

科 目 名			
心理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03 04	通期	4単位	國 宗 多 恵

【講義概要・学習目標】

- 1 心理学の概要を理解させる。
- 2 乳幼児期・児童期・青年期・老年期等人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴について理解させる。
- 3 心理学理論による人間理解とその技法の基礎について理解させる。
- 4 心理的援助技法の概要について理解させる。
- 5 社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。

【授業計画】

- 1 人間の心理学的理解
 - 1) 欲求・動機づけと行動
 - 2) 感情・情動
 - 3) 感覚・知覚・認知
 - 4) 学習・記憶・思考
 - 5) 知能・創造性
 - 6) 人格
 - 7) 適応と適応異常
- 2 人間の成長・発達と心理
- 3 人間理解のための心理学理論と技法
 - 1) 基礎理論
 - ①精神分析
 - ②行動分析
 - 2) 測定と診断
 - ①発達
 - ②知能
 - ③性格
- 4 心理的援助技法の概要
 - 1) 心理療法（個別面接法・集団面接法）
 - 2) 家族心理療法
 - 3) 行動療法

【成績評価の方法】

筆記試験（前期・後期共）

【テキスト】

「サイコロジー事始め」金児暁嗣 編 有斐閣ブックス
2,000円（本体価格）

科 目 名			
心理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	春学期集中	4単位	冷 水 啓 子

【講義概要・学習目標】

これから心理学を学ぼうとする人たちは、「心理学」という学問領域に対してどのようなイメージをいだいているであろうか？近年マスコミでよく取り上げられている「犯罪心理学」、「深層心理学」、「臨床心理学」、「カウンセリング」といった類のものがイコール「心理学」である（それら以外は、たとえ人間の「心」に関わりがあろうとも「心理学」とはみなさない）という強固な先入観にとらわれているのが大勢ではなかろうか。もちろん、それらは「心理学」のなかで重要な分野として取り扱われているが、「心のしくみとはたらき」を研究する科学としての「心理学」の研究領域はそれだけではなく、きわめて幅広く学際的である。

わたしたちの日常的活動を例に考えてみよう。わたしたちは、周囲の世界からさまざまな情報を取り入れ処理しながら日常生活を円滑に営んでいる。しかし、普段何気なく行っている、見る、聞く、感じる、考える、覚える、理解する、判断するといった活動も、実に複雑な心のはたらきによるものであることがわかっている。このような人間における基本的な情報処理活動について研究する「認知心理学」というのも「心理学」の一分野である。そこで、この講義では、近年の心理学研究上のさまざまな知見・成果を概観しつつ、人間の心のしくみとはたらき、およびその発達と学習について総合的に理解していくことを目指す。

なお、授業に関連する資料は、コンピュータ、OHC、VTR、印刷物などを通じて適宜提供する。受講生の主体的・積極的な授業参加を期待している。

【授業計画】

1. 心理学とは何か？
 - 1) 心のしくみとはたらきを知る
 - 2) 心理学の研究方法
2. 感覚と知覚
 - 1) 感覚・知覚のしくみとはたらき
 - 2) 見えの世界
 - 3) 錯覚現象
3. イメージ
 - 1) イメージの世界
 - 2) イメージ・トレーニング
4. 記憶
 - 1) 記憶のしくみとはたらき
 - 2) 日常の記憶、目撃者の証言
5. 思考と言語
6. 動機づけと情動
7. 性格
 - 1) 性格の類型と特性
 - 2) 性格テスト
8. 全体のまとめ
9. 学期末試験

〔但し、授業の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある〕

【成績評価の方法】

主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。学期末に試験を実施する。必要に応じて、簡単な実験・調査への参加やレポート提出などを求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

【テキスト】

教科書は使用しない。

【参考文献】

福祉士養成講座編集委員会（編）『心理学』（中央法規）
金児暁嗣（編）『サイコロジー事始め』（有斐閣）
中島義明（編）『メディアに学ぶ心理学』（有斐閣）
大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ—発達と学習指導の心理学—』（東京大学出版会）
梅本堯夫・大山 正・岡本浩一（編）『心理学—心のはたらきを知る—』（サイエンス社）

【備考】

<02～06生>

共通自由科目として、SS・SW生対象外

科 目 名			
スピリチュアルケア			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	伊 藤 高 章

【講義概要・学習目標】

現代社会の新しいケア領域であるスピリチュアルケアについて、その必要性、構造、隣接領域との関係、限界などについて理解する。また、その専門職養成に関わる諸問題についても、事例等を通して理解する。

【授業計画】

以下のテーマを含む

1. 深層心理学とスピリチュアリティ
2. 社会構成論とスピリチュアリティ
3. 宗教とスピリチュアリティ
4. 日本文化とスピリチュアリティ
5. 医療現場におけるスピリチュアルケア
6. 福祉現場におけるスピリチュアルケア
7. 事故・災害におけるスピリチュアルケア
8. スピリチュアルケア専門職の養成

【成績評価の方法】

1. 最低20回の出席
2. 3本の小レポート
3. 学年末試験

【テキスト】

谷山洋三・伊藤高章・窪寺俊之 著『スピリチュアルケアを語る－ホスピス、ビハラの臨床から』 関西学院大学出版会 2004

【参考文献】

授業のはじめに指示する。

【備考】

<02～06生>

共通自由科目として、SW生対象外
SW生は学科教育科目

科 目 名			
スペイン語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	通期	2単位	浅 井 るり子

【講義概要・学習目標】

英語に次いで世界で数多い国々で使用されているスペイン語を学ぶことにより、スペイン語を話す国々の文化などにも触れ、異文化理解を深めるとともに、幅広い視野をもった国際人を育てる。日常会話から時事問題まで幅広い話題を取り上げ、積極的にコミュニケーションを図る態度を育てる。スペイン語の基礎をしっかりと学びながら、初歩的な会話表現を口頭で積極的に練習をし、実際役立つ簡単な表現など、慣れ親しみ楽しく進めて行く。

【授業計画】

文法説明から始まり、それらを応用し日常生活に活かせる表現を練習し、グループごと会話の学習

【成績評価の方法】

会話や例文の完成度、文法の理解度、課題、会話文発表、小テストの平常点と出席とで総合評価する。

【テキスト】

” El abece del español ” Naoji Nakayama HAKUSUISHA

【参考文献】

「スペイン語ミニ辞典」宮本博司編 白水社

「スペイン語の入門」瓜谷良平

「しっかり学ぶスペイン語」桜庭雅子 貫井一美 ベレ出版

科 目 名			
スペイン語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	通期	2単位	浅 井 るり子

【講義概要・学習目標】

英語に次いで世界で数多い国々で使用されているスペイン語を学ぶことにより、スペイン語を話す国々の文化などにも触れ、異文化理解を深めるとともに、幅広い視野をもった国際人を育てる。日常会話から時事問題まで幅広い話題を取り上げ、積極的にコミュニケーションを図る態度を育てる。スペイン語の基礎をしっかりと学びながら、初歩的な会話表現を口頭で積極的に練習をし、実際役立つ簡単な表現など、慣れ親しみ楽しく進めて行く。

【授業計画】

文法説明から始まり、それらを応用し日常生活に活かせる表現を練習し、グループごと会話の学習

【成績評価の方法】

会話や例文の完成度、文法の理解度、課題、会話文発表、小テストの平常点と出席とで総合評価する。

【テキスト】

” El abece del español” Naoji Nakayama HAKUSUISHA

【参考文献】

「スペイン語ミニ辞典」宮本博司編 白水社
「スペイン語の入門」瓜谷良平
「しっかり学ぶスペイン語」桜庭雅子 貫井一美 ベレ出版

科 目 名			
スペイン語 II a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	通期	2単位	ゴンザレス <small>ダリオ</small> Gonzales Dario

【講義概要・学習目標】

(学習目標) 基礎的な知識を応用して、実践的に使えるスペイン語を目指す。

(講義概要) 英語に次いで20カ国以上の国々で使用されているスペイン語は日本経済の動向、国際交流、観光の面から使用する機会が増えている。

本講義では、視聴覚教材を活用してヒヤリングの力を伸ばす。又、基本的文法事項を復習しながら、簡単な会話や旅行会話のコミュニケーションが出来るスペイン語を目指す。

授業には積極的な参加を望みます。又、辞書の持参を必要とします。

【授業計画】

(前期)

- 1・空港にて
- 2・タクシー乗り場
- 3・ホテルのフロント
- 4・銀行での両替
- 5・聖家族教会

(後期)

1. 交通機関 (地下鉄、バス)
- 2・試着と買物
- 3・レストランでの注文
- 4・郵便物の発送
- 5・薬局、病院にて

【成績評価の方法】

小テストの平常点と出席点とで総合評価する。

【テキスト】

辞書の携帯を必要とする。
プリント配布。

【参考文献】

宮城昇 (編) 『スペイン語 ミニ辞典』 (白水社)
ヘレン・デイヴィーズ (著) 『絵で見る辞典スペイン語入門』 (洋販出版)

科 目 名			
スペイン語Ⅱb			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	通期	2単位	ゴンザレス Gonzales ダリオ Dario

【講義概要・学習目標】

(学習目標) スペイン語の基本的な知識を応用する力を伸ばしコミュニケーションの出来るスペイン語を目指す。

(講義概要) 本講義では、前年次に継続し基本的な知識を習得しながら、読解力、会話力を身につける。その為には、単語を調べ地道な作業を怠ってはいけない。更に、基本文型を応用する能力を伸ばす為にも語彙数を増やすように努力することは大切である。以上の観点から西和和西1冊になった小辞典の携帯は必要である。又、人に聞き取れる声で話すことは会話の基本になるので、学生諸君には、口をしっかりと開けるように心掛けて欲しい。

国際的な感覚や、視野を広める為にもスペインや、中南米諸国の生活習慣や文化についても適宜触れて幅広く学習を進めていきたいと考えている。

【授業計画】

(前期)

スペイン語圏の生活習慣を紹介しながら日常会話の表現力をつける。訪問先での応対、自己紹介の仕方、食事の仕方、フィエスタでの対応(誕生日、クリスマス)等。

(後期)

音楽、ビデオ、童話、雑誌などの補助教材を活用することにより、スペインや中南米の文化に触れながらヒヤリング力、読解力を身につける。

【成績評価の方法】

小テストの平常点と出席点とで総合評価する。

【テキスト】

辞書の携帯を必要とする。

プリント配布。

【参考文献】

宮城昇(編)『スペイン語 ミニ辞典』(白水社)

ヘレン・ディヴィーズ(著)『絵で見る辞典スペイン語入門』(洋販出版)

科 目 名			
生産管理論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	信 夫 千佳子

【講義概要・学習目標】

本講義では、現代の生産システムについて、社会科学系の学生にも分かり易く概説する。戦後アメリカから導入された「大量生産システム」や「統計的品質管理」などを説明した上で、トヨタ自動車独自に開発した「リーン生産システム」、現在、電機・電子業界などに急速に普及した「セル生産システム」について、ソニー、NEC、KOA、前川製作所等の先進的な事例を通して詳説し、「ポスト・リーン(次世代)生産システム」と仕事・生活の未来について学生諸君と議論したい。

本講義は、優れた製品がどのように生み出され管理されているかについて基礎的な知識を修得することが目標である。日本には、自動車、パソコンや携帯電話など、世界的に高い評価を得ている製品を生み出す企業がいくつもある。しかしながら、学生はそれらの生産システムについて直接接する機会は少ないので、講義では、教科書を中心にしながら、ビデオやパワーポイントなどでも事例を適宜紹介する。製造関係はもとより営業・販売、企画・開発、会計などの職種にも必要な経営管理の知識である。

【授業計画】

第1～2回 生産と生産管理、日本企業の生産システム

第3～4回 テイラー・システム ー標準化ー

第5～6回 フォード生産システム ー大量生産システムー

第7～8回 統計的品質管理とQCサークル ーKAIZENー

第9～12回 トヨタ生産システム ーリーン生産システムー

第13～15回 CIM ーコンピュータ統合生産システム

第16～18回 経営環境変化とセル生産システム ー1990年代以降の製造業界ー

第19～21回 セル生産システムの事例 ーソニー、NEC、KOAなどー

第22～24回 海外の生産システム ーアメリカ、ドイツ、スウェーデン、イタリアなどー

第25～28回 ポスト・リーン生産システム ー自律化と統合化の視点からー

第29～30回 次世代生産システムと私たちの仕事・生活の未来

【成績評価の方法】

授業中のレポート40点+試験60点

【テキスト】

信夫千佳子著『ポスト・リーン生産システムの探究ー不確定性への企業適応ー』文眞堂。

【参考文献】

随時紹介する。

科 目 名			
政治学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	村 山 高 康

【講義概要・学習目標】

政治学の内容は多岐にわたり、またその定義も一言では定め難い。そこで本講義は、以下のような限定された内容で進める。前半は、時代を近代に限定し、地域的には西欧の政治思想や学説を背景にして、国家の特質や近代デモクラシーの原理を中心に論じる。単なる過去の問題ではなく、日本をはじめ現代世界の直面する政治問題を考えるための基礎的な講義を目指す。講義は、近代西欧の歴史的背景をたどりつつ行うので、歴史への興味をもって受講されたい。後半は、大変動の時代を迎えた現代世界の政治的課題を国際政治システムの形成と変遷、近代主権国家の変貌、民族紛争や環境問題、現代の政治思想、日本の行政機構や政策形成過程などを、多面的にとりあげて考察する。多くのテーマを取りあげるが、現代世界の様々な政治的課題の底に流れる本質的な問題をクローズアップできるような講義を行う。前半と後半では講義スタイルは異なるが、学説・理論・思想・制度など抽象度の高い前半の講義を十分に咀嚼することが重要である。

【授業計画】

1. 近代国家の成立と新たな政治原理の創出
2. 近代国家の発展と近代デモクラシーの形成
3. 近代国家における政治制度の発達
4. 近代市民社会と市民政治理論の成立
5. 日本の政治—近代化の諸問題
6. 国際政治システムの形成と変遷
7. 現代社会における主権国家の変貌
8. 民族紛争・南北問題・環境破壊等への国際政治的アプローチ
9. 現代世界の政治思想の諸潮流
10. 日本の政治—行政機構と政策決定過程の分析

【成績評価の方法】

論述試験およびレポートによる評価

【テキスト】

特定の教科書は使用しない

【参考文献】

講義中に随時指示する

科 目 名			
政治学原論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	捧 堅 二

【講義概要・学習目標】

政治学原論とは政治学の原理的理論のことである。したがって理論がこの講義の中心的なテーマである。しかし、政治学原論も現実の政治をいかに分析するか、どのようにとらえるかが問われる。現実の政治についても講義の際に具体的な例をあげて論じたいと思う。

受講者は、今の日本の政治、各国の政治についてある程度の関心と最低限の知識をもっていることが望ましい。

【授業計画】

- 1 政治学の起源
- 2 マッキヤヴェッリの政治思想
- 3 政治と権力
- 4 支配する少数者
- 5 ウェーバーの理論 (1) (2) (3)
- 5 国家 (1) (2) (3)
- 6 日本政治 (1) (2) (3)
- 7 政治とイデオロギー (1) (2) (3)

【成績評価の方法】

レポート、定期試験（秋学期末のみ）

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

猪木正道『政治学新講』有信堂
マキアヴェリ『新訳 君主論』中公文庫
塩野 七生『マキアヴェッリ語録』新潮文庫
マックス・ウェーバー『職業としての政治』岩波文庫
マックス・ウェーバー『支配の社会学』I、創文社
牧野雅彦『共存のための技術——政治学入門』日本評論社
C・W・ミルズ『パワー・エリート』上下、東大出版
立花隆『田中角栄研究』上下、講談社文庫
E・H・カー『カール・マルクス』未来社
丸山眞男『現代政治の思想と行動』未来社
豊田 穰『革命家・北一輝』講談社文庫

科 目 名			
精神医学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	岡 田 章

【講義概要・学習目標】

- 1 精神医学、精神医療の歴史を理解させる。
- 2 脳および神経の生理・解剖の基礎を理解させる。
- 3 精神医学の概念について理解させる。
- 4 精神医学の診断の基本的な方法について理解させる。
- 5 代表的な精神障害について理解させる。
- 6 治療の概要について理解させる。
- 7 病院精神医学および地域精神医学について理解させる。

【授業計画】

- 1 精神医学の概念
 - 1) 精神医学の概念
 - 2) 精神医学の成因と分類
- 2 脳および神経の生理・解剖
- 3 精神症状学
 - 1) 精神症状
 - 2) 状態像
 - 3) 巣症状（神経心理学的症状）
- 4 精神医学的診断学
 - 1) 診断の手順と方法
 - 2) 心理検査と身体的検査
- 5 精神医学的治療学
 - 1) 身体的療法
 - ①薬物療法とその副作用
 - ②電気ショック療法
 - 2) 精神療法
 - 3) 環境・社会療法
 - 4) 精神科リハビリテーション
- 6 代表的な精神障害
 - 1) 症状性を含む器質性精神障害（老人性痴呆を含む）
 - 2) 精神作用物質使用による精神および行動の障害
 - 3) 統合失調症、統合失調症型および妄想性障害
 - 4) 気分（感情）障害
 - 5) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
 - 6) 成人の人格および行動の障害
 - 7) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
 - 8) てんかん
 - 9) 児童青年期の精神障害
 - ①児童青年期の精神障害の特徴
 - ②精神遅滞
 - ③心理的発達の障害
 - ④小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害
- 7 精神医学と社会
 - 1) 精神科医療の歴史（患者処遇の歴史）
 - 2) 精神医学の歴史
 - 3) 地域精神医学

【成績評価の方法】

前期 レポート
後期 テスト

【テキスト】

改訂 精神保健福祉士養成セミナー 精神医学 第1巻 へるす出版

【参考文献】

ICD-10 精神および行動の障害 WHO編 医学書院
DSM-IV-TR 精神疾患の分類と手引き APA編 医学書院
精神病 笠原嘉編 岩波新書
現代児童青年精神医学 山崎晃資ら編 永井書店

科 目 名			
精神科リハビリテーション学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	栄 セツコ

【講義概要・学習目標】

- 1 精神科リハビリテーションの概念について理解させる。
- 2 精神科リハビリテーションの構成について理解させる。
- 3 精神科リハビリテーションのプロセスと技術について理解させる。
- 4 精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解させる。
- 5 精神科リハビリテーションにおける連携について理解させる。

【授業計画】

- 1 精神科リハビリテーションの概念
 - 1) リハビリテーションの概念と歴史
 - 2) リハビリテーションの理念、意義と基本原則
 - 3) 精神科リハビリテーションの概念
 - 4) 精神科リハビリテーションの理念と意義
 - 5) 精神科リハビリテーションの基本原則と技法
 - 6) わが国及び諸外国の精神科リハビリテーションの現状
- 2 精神科リハビリテーションの構成
 - 1) 精神科リハビリテーションの対象
 - 2) 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割
 - 3) 精神科リハビリテーションに関わる専門職等との連携
 - 4) 精神科リハビリテーションの施設
 - (1) 病院リハビリテーション施設等
 - (2) 社会復帰施設及びその他の社会資源（小規模作業所、グループホーム、地域生活支援事業など）
 - (3) 精神保健福祉センター及び保健所
 - (4) その他の協力機関、支援団体
 - 5) 精神科リハビリテーションの関連領域
- 3 精神科リハビリテーションのプロセス
 - 1) リハビリテーション計画
 - 2) アプローチの方法
 - (1) 病院におけるリハビリテーション
 - (2) 社会復帰施設及びその他の社会資源におけるリハビリテーション
 - (3) 地域におけるリハビリテーション
 - 3) 疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション
- 4 医療機関におけるリハビリテーション
 - 1) 作業療法およびレクリエーション療法
 - 2) 集団精神療法
 - 3) 行動療法
 - 4) 認知行動療法（生活技能訓練を含む）
 - 5) 家族教育プログラム
 - 6) デイケアおよびナイトケア
 - 7) 精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導
- 5 精神保健福祉士が行うリハビリテーション
 - 1) 精神保健福祉士が関わる医学的リハビリテーション
 - (1) 集団精神療法における精神保健福祉士
 - (2) 生活技能訓練における精神保健福祉士
 - (3) デイケアおよびナイトケアにおける精神保健福祉士
 - (4) 訪問看護・指導における精神保健福祉士
 - 2) 社会的リハビリテーション
 - (1) 日常生活への適応のための訓練
 - (2) 社会復帰のための相談・助言・指導
- 6 精神科リハビリテーションの総合化
 - 1) 地域リハビリテーション
 - (1) 地域ネットワーク
 - (2) ケアマネジメント
 - (3) 地域生活支援事業と訪問援助
 - (4) 家族会および自助グループ
 - (5) ボランティアの育成と活用
 - 2) 職業リハビリテーション
 - 3) 精神保健福祉施策と精神科リハビリテーション

【成績評価の方法】

出席状況、レポート、試験を総合して評価する。

さ
行

【テキスト】

(精神保健福祉士養成講座編集委員会編)『精神科リハビリテーション学』(中央法規出版社)

【備考】

インテグレーション科目

00・01SW生は、精神保健福祉士受験資格課程科目(随意)として履修

科 目 名

精神保健学

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	郭 麗 月

【講義概要・学習目標】

- 1 精神保健についての基本知識について理解させる。
- 2 ライフサイクルにおける精神保健について理解させる。
- 3 精神保健における個別課題への取り組みと実際について理解させる。
- 4 地域精神保健と地域保健について理解させる。
- 5 諸外国における精神保健の概要について理解させる。
- 6 関連法規および施設について理解させる。

【授業計画】

- 1 精神保健についての基礎知識
 - 1) 精神保健の概要
 - 2) 精神保健の意義と課題
- 2 ライフサイクルにおける精神保健
 - 1) 胎児期および乳幼児期における精神保健
 - 2) 学童期における精神保健
 - 3) 思春期における精神保健
 - 4) 青年期における精神保健
 - 5) 成人期における精神保健
 - 6) 老年期における精神保健
- 3 精神保健における個別課題への取り組み
 - 1) 精神障害者対策
 - 2) 老人性痴呆疾患対策
 - 3) アルコール関連問題対策
 - 4) 薬物乱用防止対策
 - 5) 思春期精神保健対策
 - 6) 地域精神保健対策
 - 7) ターミナルケアと精神保健
- 4 精神保健活動の実践
 - 1) 家庭における精神保健
 - 2) 学校における精神保健
 - 3) 職場における精神保健
 - 4) 地域における精神保健
- 5 地域精神保健と地域保健
 - 1) 地域精神保健施策の概要
 - 2) 地域保健施策の概要
 - 3) 関係法規
 - 4) 関連施策
- 6 諸外国における精神保健

【成績評価の方法】

レポート、定期試験

【テキスト】

(精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編)
『精神保健福祉士養成セミナー 第2巻 「精神保健学」』(へるす出版)

【参考文献】

適時紹介する。

科 目 名			
精神保健福祉援助演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	郭 麗 月

【講義概要・学習目標】

- 1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実技指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。

【授業計画】

精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法が学生個人に身につくよう、精神障害者の社会復帰に対する援助事例を取り上げるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導の下で、学生自身が積極的に報告し議論しあう形で事例研究およびロールプレイ等を行う。その際、次の点に留意する。

- 1 実習前においては、少なくとも精神病院等保健・医療施設及び社会復帰施設等福祉施設における精神障害者援助技術のモデル的な事例を取り上げ、講義の内容を深め、実習の教育効果が上がるようにする。
- 2 演習を通して援助関係の実際及びチーム医療の実践を身につけるようにする。
- 3 実技指導等
 - (1) 面接実技指導
 - (2) 記録実技指導
 - (3) 集団実技指導
 - (4) 評価・効果測定実技指導
- 4 精神保健福祉士としての、職業倫理についての理解を身につけるようにする。
- 5 実習後においては、実習総括をふまえて、精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席・参加状況、レポート、試験を総合して評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

【参考文献】

適宜指定する。

科 目 名			
精神保健福祉援助技術各論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	キン 金 フ 文 ミ 美

【講義概要・学習目標】

- 1 精神障害者の疾病及び障害に配慮した個別援助技術（ケースワーク）についてその概念、及び具体的事例に基づき理解させる。
- 2 精神障害者の疾病及び障害に配慮した集団援助技術（グループワーク）についてその概念、及び具体的事例に基づき理解させる。
- 3 精神障害者ケアマネジメントについてその概念、及び具体的事例に基づき理解させる。
- 4 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）についてその概念、及び具体的事例に基づき理解させる。
- 5 精神障害者を対象とした援助技術について具体的事例に基づき理解させる。

【授業計画】

- 1 精神障害者を対象とした個別援助技術（ケースワーク）
 - 1) 疾病及び障害に配慮した個別援助技術
 - 2) 個別援助技術の実際と適用分野
 - 3) 個別援助技術におけるスーパービジョン
 - 4) 具体的事例検討
- 2 精神障害者を対象とした集団援助技術（グループワーク）
 - 1) 疾病及び障害に配慮した集団援助技術
 - 2) 集団援助技術の実際と適用分野（生活技能訓練を含む）
 - 3) 集団援助技術におけるスーパービジョン
 - 4) 具体的事例検討
- 3 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）
 - 1) 地域援助技術の概念と基本的性格
 - 2) 地域援助技術の具体的展開
 - (1) ノーマライゼーションの推進と住民参加
 - (2) 社会資源の活用と開発
 - (3) 地域社会における連携と調整機能
 - (4) 家族会、自助グループの支援
 - (5) ボランティア等地域マンパワーの育成と活用
 - (6) 地域援助
 - 3) 具体的事例検討
- 4 精神障害者のケアマネジメント
 - 1) ケアマネジメントの原則
 - (1) ケアマネジメント
 - (2) 適用と対象
 - (3) 人権への配慮
 - 2) ケアマネジメントの意義と留意点
 - (1) ケアマネジメントの意義と留意点
 - (2) 関係機関との連携
 - 3) ケアマネジメントのプロセス
 - (1) 受理面接（インテーク）
 - (2) ニーズの把握とその評価
 - (3) 目標設定と計画的実施
 - (4) 包括的サービスの実現
 - 4) チームアプローチ
 - 5) 具体的事例検討
- 5 精神障害者援助と関連専門職種との連携
 - 1) チーム医療における精神保健福祉士の役割
 - 2) 専門職等の役割と機能
 - 3) チームアプローチ及び生活支援の理念と精神保健福祉士の役割
 - 4) 協力・連携による包括的保健・医療・福祉サービス

【成績評価の方法】

レポート提出

【テキスト】

精神保健福祉士養成セミナー（第6巻）
『精神保健福祉援助技術各論』（へるす出版）

【備考】

00・01SW生は、精神保健福祉士受験資格課程科目（随意）として履修

科 目 名			
精神保健福祉援助技術総論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	辻 井 誠 人

【講義概要・学習目標】

○精神障害者に対する社会福祉施策とその具体的展開場面である援助活動を体系的に理解する。

○精神障害者への社会福祉援助活動を展開する専門職（価値及び倫理、専門技術、専門知識）について理解する。

○精神保健福祉士が専門技術を用いる具体的事例を取り上げ、理論的に検証する。

【授業計画】

- 1 援助技術を用いて取り組む課題
精神障害者とその生活困難性について
- 2 精神障害者への社会福祉援助活動を展開する専門職
価値及び倫理
専門技術の体系
専門知識
- 3 精神保健福祉士と専門技術の展開過程
各展開過程における原則
具体的実践例による検証

【成績評価の方法】

期末試験の成績を中心に評価する。
レポートの提出を求めた場合はその評価も含める。
出席や授業態度などは期末試験に加算する場合がある。

【テキスト】

住友雄資・長崎和則・金子努・辻井誠人編『精神保健福祉実践ハンドブック』日総研出版 2002年

【参考文献】

- 仲村優一監修『ソーシャルワーク倫理ハンドブック』中央法規出版 1999年
- 岡村正幸、川田誉音編『個別援助の方法論』株式会社みらい1998年
- 北島・副田・高橋・渡部編『ソーシャルワーク実践の基礎理論』有斐閣 2002年

その他講義で随時紹介

科 目 名			
精神保健福祉援助実習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	6単位	<春>郭 麗 月 <秋>栄 セツコ

【講義概要・学習目標】

- 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
- 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。
- 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

【授業計画】

- 1 実習オリエンテーション
- 2 視聴覚学習
- 3 現場体験学習
- 4 見学実習（急性期病棟など）
- 5 専門援助技術実習指導
- 6 リハビリテーション実習指導
- 7 配属実習
- 8 全体総括

【成績評価の方法】

全出席（学内・学外）を条件とする。
実習記録、実習レポート、実習研究報告、実習先評価を総合して評価する。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

適時紹介する。

【備考】

00・01SW生は、精神保健福祉士受験資格課程科目（随意）として履修

科 目 名			
精神保健福祉論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	栄 セツコ

【講義概要・学習目標】

- 1 障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者に共通の福祉施策の概要について理解させる。
- 2 精神障害者の人権について理解させる。
- 3 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解させる。
- 4 精神障害者に対する相談援助活動等を理解させる。
- 5 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律の意義と内容を理解させる。
- 6 精神保健福祉施策の概要について理解させる。
- 7 精神保健福祉の関連施策について理解させる。

【授業計画】

- 1 障害者福祉の理念と意義
 - 1) 障害者福祉の理念
 - (1) 障害者福祉の発達
 - (2) ノーマライゼーション
 - (3) リハビリテーション
 - (4) 生活の質 (QOL)
 - (5) 生活支援
 - 2) 障害及び障害者
 - (1) 障害の概念
 - (2) 障害分類 (国際障害分類を含む)
 - (3) 精神障害の特性
 - 3) 障害者福祉の基本施策
 - (1) 障害者基本法
 - (2) 障害者プラン
 - 4) 現代社会と精神障害者
 - (1) 精神障害者の概念
 - (2) 精神障害者と家族
 - (3) 精神障害者と地域社会
 - (4) 精神障害者のノーマライゼーション
- 2 精神障害者の人権
 - 1) 精神障害者の権利擁護
 - 2) 精神医療における権利擁護
 - 3) インフォームドコンセント
 - 4) 地域社会における精神障害者の人権
- 3 精神保健福祉士の理念と意義
 - 1) 精神保健福祉の歴史と理念
 - 2) 精神保健福祉士の意義
 - 3) 精神保健福祉士の対象
 - 4) 精神保健福祉士の専門性と倫理
- 4 精神障害者に対する相談援助活動
 - 1) 精神障害者を取りまく社会的障壁 (バリアー)
 - 2) 精神障害者の主体性の尊重
 - 3) 相談援助活動の方法
 - (1) 医療施設における相談援助活動
 - (2) 社会復帰施設等における相談援助活動
 - (3) 地域社会における相談援助活動
 - 4) 相談援助活動の事例
- 5 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律
 - 1) 精神保健福祉法の意義と内容
 - 2) 精神保健福祉士法の意義と内容
 - 3) 関連法について
- 6 精神保健福祉施策の概要
 - 1) 精神保健福祉に関する行政組織
 - 2) 精神保健福祉に係る公的負担制度 (公費負担医療等)
 - 3) 精神保健福祉施策の課題
 - (1) 精神障害者福祉対策
 - (2) 社会復帰対策
 - 4) 精神保健福祉における社会資源
 - (1) 精神障害者保健福祉に関わる専門職との連携
 - (2) 社会資源
- 7 精神保健福祉の関連施策
 - 1) 雇用・就業 (障害者雇用促進法等の概要を含む)
 - 2) 所得保障
 - 3) 経済負担の軽減

4) 生活環境の改善

【成績評価の方法】

出席状況、レポート、試験を総合して評価する。

【テキスト】

(精神保健福祉士養成講座編集委員会編)『精神保健福祉論』(中央法規出版社)

さ
行

科 目 名			
生徒指導法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	宮 本 進

【講義概要・学習目標】

21世紀初頭の地球は科学技術、情報技術の進歩、経済活動の多国籍化、地球環境の悪化など急激な変化の最中にある。幾つかの地域では紛争中であり日本もそれに無関係ではいられない。また、日本経済は低迷中である。生徒達は将来への予測が難しく、目標が見えにくい。特に、将来の進路への漠とした不安の中にある。それが生徒達の種々の問題状況を生む背景ともなっている。生徒指導は教科指導以外の指導のことであり、その内容は学業指導・進路指導・個人的適応指導・社会性指導・余暇指導・健康、安全指導などの領域がある。究極の目的は「自らの生き方を構築する自己指導力の育成」にあると言える。受講生自らがこの力をどう養うのかを提起しつつ、進路指導の領域に重点を置きながら各領域について具体的な諸実践を考察し、生徒指導のあり方を研究する。

討論等を取り入れた参加型の授業にしたい。

【授業計画】

- ・はじめにー講義計画など
- ・教育の原点と生徒指導
- ・生徒達を取り巻く社会状況と生徒指導
- ・どんな教員に
- ・個人的指導力と組織的指導力と生徒指導
- ・生徒指導の実際と原理・原則
- ・進路指導の実際と原理・原則と生徒指導
- ・まとめとテスト

【成績評価の方法】

出席回数、授業内での発表、小レポート、期末レポートなどを総合して行う。但し2/3以上の出席がない場合は評価しない。

【テキスト】

授業ノート・資料などをプリントして配布する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する

科 目 名			
生徒指導法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2単位	辻 川 信 孝

【講義概要・学習目標】

今、学校は様々な問題を抱えている。いじめ、不登校、学級崩壊、校内暴力、高校中退など生徒指導上の問題が多発し、学校教育のあり方が問われている。一方、新しい教育のあり方が議論され、個性重視、生きる力の育成等、生徒指導の新しい課題も指摘され、教育改革の取り組みがすでに始まっている。このような状況の中で、教育実践者に、これら生徒指導上の問題の本質をとらえる目と個々の子どもに必要な援助方法を身につけることが求められている。本授業では、学校現場の事例を中心に、参加型の授業を進めて行きたい。事例から、問題の本質を見つけ、自分なりの考えをまとめ、グループワークにより問題解決に向けての考え方（法則性）を習得してもらいたい。併せて、数多くの事例に接することにより、適切な対応（生徒指導の技術）と子どもたちに接する姿勢（生徒指導の心）を学びとって欲しい。

【授業計画】

1. 生徒指導とは
 - (1) 授業計画と進め方・子どもたちの状況と生徒指導のあり方
 2. 事例研究（学校現場の実践から学ぶ）
 - (1) 校則・生徒心得
 - (2) いじめ
 - (3) 不登校
 - (4) 授業妨害・学級崩壊
 - (5) 校内暴力
 - (6) 性に関する問題行動
3. 求められる生徒指導
 - (1) 子どもたちへの関わり方
 - (2) 楽しい授業づくり
 - (3) 生き方としての進路指導（職場体験学習）
 - (4) 学級経営に生かせるカウンセリングの演習
 - (5) 地域と一体の子育て支援活動
4. まとめ

【成績評価の方法】

出席状況・授業中の発表・期末の最終レポートの結果を総合的に評価して行う。

ただし、2/3以上の出席がなければ評価しない。

【テキスト】

毎時間、プリントを配布する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

科 目 名			
税法Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	木 村 吉 孝

【講義概要・学習目標】

税法とは租税に関する法のことであるが、わが国では例えば「税法」という名の統一された法律があるわけではない。所得税法や法人税法など多数の法律とそれを施行する施行法や省令から税法は成り立っている。私たち納税者は、これら税法の定めるところにしたがって国や地方公共団体に租税を納めることとなるため、税法の内容は私たちの生活に密接に関係している。そこで、税法全般における基礎理論や通則等についてよく理解し、また主要な税目についての納税義務の成立・確定・履行に関する基本的な知識を習得することは、今日の経済社会における私たちの重要な課題といえる。

「税法Ⅰ」では、まず税法の基礎理論として、税法の体系や基本原則、解釈・適用について概説した上で、所得税に焦点をあててその課税要件や税額の計算構造について講義する。受講生は、講義を通じて税法の基礎理論と所得税の仕組みや問題点についてよく理解することが期待される。

【授業計画】

1. 租税の意義と種類
2. 税法の意義と体系
3. 税法の基本原則
4. 税法の解釈と適用
5. 課税要件総論
6. 所得税の意義と類型
7. 所得税の課税要件
8. 各種所得の意義と範囲
9. 総合課税と分離課税
10. 損益通算
11. 所得控除
12. 所得税額の計算
13. 所得税の申告と納付
14. 源泉徴収と年末調整

【成績評価の方法】

おもに期末試験の成績により評価する。

【テキスト】

清永敬次『税法（第六版）』（ミネルバ書房）

【参考文献】

金子宏・清永敬次・宮谷俊胤・畠山武道『税法入門（第5版）』（有斐閣新書）
金子宏『租税法（第十版）』（弘文堂）。

科 目 名			
税法Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	木 村 吉 孝

【講義概要・学習目標】

税法は多数の法律とそれを施行する施行法や省令から成り立っている。税法は複雑・難解といわれるが、その内容は私たちの生活に密接に関係しているため、税法の基礎理論や通則等をよく理解し、主要な税目の仕組みや問題点を理解することは私たちの重要な課題である。

「税法Ⅰ」では、税法の基礎理論と所得税の課税要件を中心に学習したが、「税法Ⅱ」では、税法全般に共通する通則等について概説した上で、財産税である相続税を取り上げてその課税要件や税額計算の仕組みについて講義する。受講生は、講義を通じて税法に関する基礎知識と相続税の仕組みや問題点についてよく理解することが期待される。

【授業計画】

1. 納税義務の成立・承継・消滅
2. 納税義務の確定
3. 租税の納付と徴収
4. 納税者の権利救済
5. 租税犯とその処罰
6. 相続税の意義
7. 相続に関する民法の規定
8. 相続税の課税要件
9. 相続税額の計算
10. 相続財産の評価
11. 贈与税と相続時精算課税制度
12. 相続税の申告と納税

【成績評価の方法】

おもに期末試験の成績により評価する。

【テキスト】

清永敬次『税法（第六版）』（ミネルバ書房）

【参考文献】

金子宏・清永敬次・宮谷俊胤・畠山武道『税法入門（第5版）』（有斐閣新書）
金子宏『租税法（第十版）』（弘文堂）。

さ
行

科 目 名			
税務会計			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	金 光 明 雄

【講義概要・学習目標】

税務会計は、企業の活動内容を記録し、それに基づいて企業（個人企業と法人企業の両方を含む）の課税所得金額と税額を計算して、その結果を報告する過程です。税務会計によって作成される課税所得金額や税額に関する情報は、申告納税制度のもとでまず税務当局に対して報告され、さらに合理的な租税負担を可能にする有効なタックス・プランニングのための情報として企業の経営者に対しても報告されます。とくにバブル経済の崩壊以降、長引く経済不況のために、それまでの売上拡大による企業成長が困難な状況となった現在においては、できるだけ企業の納税額を節約（「脱税」とは違う）して税引後キャッシュ・フローを増やすことが、企業価値最大化の観点から注目されています。このような意味においても、税務会計の果たす役割は重要なものとなっています。

この講義では、主に法人企業を対象にして、税務当局や経営者に対して報告される課税所得金額や税額の計算の仕組みとルールを、財務会計との相違点にも触れながら解説します。そして最終的には、税務会計の基本的な枠組みが理解できるようになることを目指します。

【授業計画】

概ね以下のような内容にそって、講義を進めていく予定です。またこの講義では、理解を深めるために計算問題による演習を行います。その結果は平常点として成績評価に加味します。

1. 法人所得課税制度の概要
2. 課税所得計算の構造
3. 益金計算・損金計算の原則と特例
4. 益金の計算
5. 損金の計算
6. 税額の計算
7. 企業組織再編税制
8. 連結納税制度

なお、この講義の具体的な進め方や成績評価の方法については初回の講義（オリエンテーション）で説明しますので、受講希望者は必ず初回の講義に出席してください。

【成績評価の方法】

小テスト（平常点）と期末試験で評価します。

【テキスト】

下村英紀『基本テキスト・シリーズ 法人税法』同文館出版、2005年。
その他、レジュメを配布します。

【参考文献】

中田信正『税務会計要論』同文館出版、最新版。
その他の参考文献については、必要に応じて講義の中で指示します。

科 目 名			
西洋経済史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	前 田 治 郎

【講義概要・学習目標】

18世紀後半のイギリスに始まる産業革命は、人類史的観点からしても、巨大なインパクトをもった。それ以後、資本主義という経済システムが確立・発展し、その下で、人間の生産力は加速度を加えながら飛躍し今日に至る。とはいえ、この過程は常に平坦な道のりであったわけではない。すなわち、一方で、経済成長が順調に進展する時期と成長が鈍化し様々な対立が生じる時期が交替したし、また他方では、資本主義の世界的展開過程において、戦争に象徴されるような諸国民国家間の対立も伴わざるを得なかった。本講義では、イギリス産業革命から第1次大戦までを対象時期として、イギリス、フランス、ドイツ、アメリカにおける各国資本主義の確立・展開過程を縦軸に、各国資本主義の関係の緊密化＝資本主義の世界体制の形成過程を横軸にとり、いわゆるパクス・ブリタニカの歴史的発展を考えたい。

【授業計画】

1. イギリス産業革命と各国の対応
2. イギリス資本主義の再編成
3. パクス・ブリタニカの生成と発展
4. 大不況期と独占資本主義

【成績評価の方法】

春学期末試験と授業中に数回行う予定の小テスト

【参考文献】

藤瀬浩司（著）『資本主義世界の成立』（ミネルヴァ書房）

【備考】

<02~06生>
共通自由科目として、E生対象外
E生は学科教育科目